

日本薬学会

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

報告書

2023年10月



公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan

目 次

ページ

開催の経緯と概要	1
プログラム	3
参加者グループ分けおよび運営スタッフ・オブザーバー	5
「趣旨説明」原稿	8
セッション報告	
第一部「薬学を学ぶ私の過去・現在・未来」	
作業説明	16
第二部「私たちの研究マインド」	
作業説明	21
グループ報告	23
第三部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」	
作業説明	38
グループ報告	40
参加者アンケート結果	64
参加者印象記	74
2023 年度日本薬学会薬学教育委員会	89

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて博士を取得した先輩と共に考えよう」

開催の経緯と概要

薬学に関する学術の進歩を持続するためには学術活動に従事する人材の育成が欠かせない。しかし、近年は大学院の4年制博士課程および博士後期課程（3年）への進学者が減少しており、学術を推進する博士人材の不足が懸念されている。そこで、薬学教育委員会は2022年度から今後の学術進歩を担う若手人材の育成に資する活動に取り組んでいる。

最初の取組として2022年11月に「学位（博士）取得者のキャリアデザインに関するワークショップ（以下、キャリアデザインWS）」を開催し、薬学教育制度が変更された平成18年度以降に薬学部に入學し、大学院において学位を取得してアカデミア、医療機関あるいは企業等で働く若手博士たちのキャリアの現況やビジョン・ニーズを確認した。現在のキャリアにおける「課題」として、「ロールモデル不足（不在）」、「不安定で不確実なキャリア（就職先、任期、給与、休職・転職など）」、「ワーク・ライフ・バランス」、「大学院博士課程在学時の経済的負担」、「臨床と基礎の連携不足」、「臨床で働く薬剤師にとっての研究時間確保」などがあげられ、解決のアイデアがいくつか提案された。とくに「ロールモデル不足（不在）」に対しては、「自分たちがロールモデルとなる」という主体的で心強い解決策が提示された（報告書参照：<https://www.pharm.or.jp/kyoiku.html>）。

2023年度はキャリアデザインWS参加者から有志12名の協力を得て、学部学生の研究マインドを高めることを目的に第1回シン・全国学生ワークショップ「研究マインドを活かすキャリアについて博士を取得した先輩と共に考えよう」（以下、シン・全国学生WS）を8月11日にオンライン（Zoom）で開催した。参加者は各大学に本WSの趣旨に適った学年（6年制・4年制どちらも可）の学生の推薦を依頼し、64大学から71名の学生が参加した。参加者の内訳は次の通りである：6年制課程67名（2年次3名、3年次16名、4年次45名、5年次3名）、4年制課程4名（3年次2名、4年次2名）。参加者は4チームに分かれ、各チームはさらに3グループに分かれてディスカッションを行った。

第1部で参加者はチームごとにWorld Caféを行い、チーム内のメンバーと「薬学を学ぶ私の過去・現在・未来」をテーマにおしゃべりを楽しんだ。第2部「私たちの研究マインド」では、チームごとにWS協力者（若手博士人材）による研究マインドの紹介が行われた後、グループに分かれて研究の魅力（面白い、楽しいところ）について意見交換を行った。第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」においても、まずチームごとにWS協力者からそれぞれが歩んでいるキャリアが紹介された。続いて、各グループで「研究マインドを活かせるキャリア」をリストアップした後、各自がキャリアプランを立て、グループ内で共有した。本WSの内容を以下にまとめたので、参加した学生たちの熱い研究マインドと目標とするキャリアプランを確認していただきたい。

最後に、本WSにロールモデルとして参画いただいた協力者各位、およびオンラインWSの円滑な運

営に欠かせない ICT サポートを担って下さった教員各位に心から感謝と敬意を表する次第である。日本薬学会薬学教育委員会は本ワークショップのプロダクトとアンケート結果に基づいて、2024 年度も全国学生 WS を継続する予定である。

2023 年 10 月

日本薬学会薬学教育委員会委員長

第 1 回シン・全国学生ワークショップ実行委員長

中村明弘

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて博士を取得した先輩と共に考えよう」

- ◆ 開催日：2023年8月11日（金）
- ◆ 主催：公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会
- ◆ 参加者：研究に興味・関心を持つ薬学生 71名（64大学）
- ◆ 形式：オンライン開催（Zoom）
- ◆ 実行委員長：中村明弘（日本薬学会 薬学教育委員会 委員長）

<プログラム>

- 8：30 参加者受付（8:50 までに入室）
- 9：00 開会あいさつ 日本薬学会 会頭 岩渕 好治
文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官 大久保 正人
- 9：05 趣旨説明 日本薬学会 薬学教育委員会 委員長 中村 明弘
- 第1部 「薬学を学ぶ私の過去・現在・未来」
- 9：20 作業説明
- 9：30 World Café
- 10：50 休憩
- 第2部 「私たちの研究マインド」
- 11：00 作業説明
- 11：10 先輩の研究マインド
- 11：40 Small Group Discussion
- 12：30 昼食
- 13：20 発表・討論
- 13：55 休憩
- 第3部 「研究マインドを活かすキャリアデザイン」
- 14：05 作業説明
- 14：15 先輩が歩むキャリア
- 14：45 Small Group Discussion
- 15：35 休憩
- 15：45 発表・討論
- 16：20 振り返り
- 16：40 全体まとめ
コメント 文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官 大久保 正人
薬学教育係長 織内 薫
- 閉会あいさつ 日本薬学会 会頭 岩渕 好治
- 17：00 閉会
- 17：00 参加者自由交流

第2部・第3部における協力者の講演タイトル

	第2部 「先輩の研究マインド」	第3部 「先輩が歩むキャリア」
小西 成樹	研究に魅力を感じた私	薬学/サイエンスへの探究心が導くキャリア
志田 拓顕	どうせやるなら創造的に	臨床+研究 二刀流？
吉田啓太郎	今が一番面白い！楽しい！	大学院の経験が薬学的視野を広げる
黒岩 亮平	なぜ私は研究をするのか	臨床薬剤師×研究マインド
三宅 崇仁	大学院で気付いた私の「研究」マインド	アカデミアで一人前になりたい 私のキャリアデザイン
柳津 茂慧	研究が好きだと感じた瞬間	働きがいがある瞬間を求める
鹿山 将	私の興味から誰かの興味へ	薬学部の特長から生まれる独創的な研究 を目指して
志田 美春	最適解を求めて	水平線の向こうへ～青い海に魅せられて～
田中 達也	病院薬剤師が研究する理由	目の前の患者、未来の患者のために
磯田 紀之	問題解決のために自分ができる事	一人で出来る事は限られている、だからみんなと一緒に
公文代 将希	ゼロから形成された研究マインド	医療の未来を切り開くための研究・診療・ 教育の実践
小林 由希	私を変えた、研究	こんなところにも研究マインド

第1回シン・全国学生ワークショップ 参加者・グループ編成

全体チーフ：中村明弘、サブチーフ：鈴木 匡

ICTチーフ：木下 淳

1チームTF：大野、大山、座間味

協力者：志田拓顕、小西、吉田

(1A) TF：大野 協力者：小西	
伊藤 亮	静岡県立大学
児玉 若葉	立命館大学
田島 菖悟	日本薬科大学
西村 海杜	湘南医療大学
廣岡 実紗	北里大学
松本 奈穂美	徳島大学
村重 菜々子	福山大学

(1B) TF：大山 協力者：志田拓顕	
遠藤 暉大	神戸学院大学
岡 潔志	金沢大学
小池 歩乃歌	医療創生大学
長谷川 瑶太	東北医科薬科大学
宮島 伶奈	慶応義塾大学
森 千夏	国際医療福祉大学福岡薬学部

(1C) TF：座間味 協力者：吉田	
伊東 岳志	横浜薬科大学
北里 悠喬	熊本大学
齋藤 梨里	城西国際大学
中山 幸子	摂南大学
宮崎 琴音	北陸大学
渡邊 真里菜	金城学院大学

2チームTF：石田、鈴木小夜、松永

協力者：三宅、黒岩、柳津

(2A) TF：石田 協力者：黒岩	
青柳 美沙	東京大学
石川 明香里	北海道医療大学
石橋 郁人	日本大学
市瀬 弥来	名城大学
伊藤 新都	就実大学
森合 達哉	奥羽大学

(2B) TF：鈴木小夜 協力者：三宅	
上田 麻未	帝京大学
大森 聖也	岩手医科大学
岡山 芽生	鈴鹿医療科学大学
中野 結斗	昭和薬科大学
増田 萌々香	神戸薬科大学
森 洸太	長崎大学

(2C) TF：松永 協力者：柳津	
川田 晃大	城西大学
國井 菜那	東北大学
柴谷 真理子	和歌山県立医科大学
溝口 太雅	徳島文理大学香川薬学部
宮崎 由衣	金城学院大学

3チームTF：岸本、高橋、前田

協力者：鹿山、志田美春、田中

(3A) TF：岸本 協力者：鹿山	
五十嵐 寛	東邦大学
榎本 光桜	徳島大学
幸松 泰侍	広島国際大学
今 聡太	青森大学
安田 聖菜	兵庫医科大学
渡辺 佳愛子	昭和大学

(3B) TF：高橋 協力者：志田美春	
中田 温子	北海道科学大学
藤原 美穂	広島大学
三輪 陽都	岐阜薬科大学
矢津田 桃香	大阪大谷大学
渡邊 亮	城西大学

(3C) TF：前田 協力者：田中	
沖 啓太	明治薬科大学
加藤 茉裕	新潟薬科大学
亀澤 悠香	武蔵野大学
中筋 颯也	大阪大学
藤本 瑞姫	徳島文理大学
山川 真祈	国際医療福祉大学福岡薬学部

4チームTF：○武田、辻、徳山、輪千

協力者：磯田、小林

(4A) TF：武田 協力者：磯田	
芥川 理礼	東北医科薬科大学
卜部 裕月	京都大学
大西 未紗	山口東京理科大学
豊川 恵子	帝京平成大学
永濱 夢叶	第一薬科大学
米澤 拓都	武蔵野大学

(4B) TF：辻・輪千	
内田 大和	崇城大学
川原 茉侑	昭和大学
洲鎌 未空	富山大学
宮岡 英矢	福岡大学
本村 達也	名古屋市立大学
湯本 千文	同志社女子大学

(4C) TF：徳山 協力者：小林	
伊藤 雅聡	東京薬科大学
大谷 紗永	岡山大学
菅 琴実	愛知学院大学
谷藤 優樹	千葉科学大学
田原 脩吾	大阪医科薬科大学
檀原 優花	高崎健康福祉大学

運営スタッフ

実行委員	中村 明弘	昭和大学薬学部
	石田 竜弘	徳島大学大学院
	大野 恵子	明治薬科大学
	大山 要	長崎大学病院
	岸本 成史	昭和薬科大学
	木下 淳	兵庫医科大学
	座間味 義人	岡山大学病院
	鈴木 小夜	慶應義塾大学
	鈴木 匡	名古屋市立大学大学院
	高橋 秀依	東京理科大学
	武田 香陽子	北海道科学大学
	辻 琢己	摂南大学
	徳山 尚吾	神戸学院大学
	前田 和哉	北里大学
	松永 俊之	岐阜薬科大学
	輪千 浩史	星薬科大学
ワークショップ協力者 (2022 キャリアデザイン WS 参加者有志)	鹿山 将	東北大学大学院薬学研究科薬理学分野
	志田 拓顕	順天堂大学医学部附属順天堂医院
	公文代 将希	東北大学病院薬剤部
	磯田 紀之	国際医療福祉大学大川キャンパス福岡薬学部
	三宅 崇仁	京都大学大学院薬学研究科
	志田 美春	株式会社 Co-LABO MAKER
	小林 由希	BASF ジャパン株式会社
	小西 成樹	北里大学薬学部生薬学教室
	田中 達也	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部
	黒岩 亮平	さいたま赤十字病院
	柳津 茂慧	明治薬科大学病態 RNA 制御学研究室
	吉田 啓太郎	かかりつけ薬局支援センター
ICT サポート	苫米地 隆人	北里大学
	藤本 哲也	北海道科学大学
	村岡 千種	藤田医科大学
	楠 欣己	星薬科大学
事務局	川島 望美	日本薬学会事務局
	長 晃矢	日本薬学会事務局

オブザーバー

会頭	岩渕 好治	東北大学大学院
担当理事	金井 求	東京大学大学院
	加藤 将夫	金沢大学大学院
招待者	大久保 正人	文部科学省高等教育局医学教育課
	織内 薫	文部科学省高等教育局医学教育課



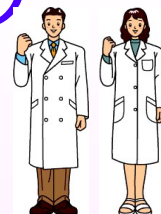
趣旨説明原稿

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを生かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

日本薬学会薬学教育委員会主催 第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」



開催日：2023年8月11日（金）

主 催：公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会

参加者：研究に興味・関心を持つ薬学生72名

形 式：オンライン開催（Zoom）

実行委員長：中村明弘

1



公益社団法人
日本薬学会

日本薬学会薬学教育委員会主催 第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

開会あいさつ

➤ 日本薬学会 会頭 岩淵好治

（東北大学大学院薬学研究科教授）

2



公益社団法人
日本薬学会

日本薬学会薬学教育委員会主催
第1回シン・全国学生ワークショップ
「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

開会あいさつ

- 文部科学省高等教育局医学教育課
薬学教育専門官 大久保 正人

3



公益社団法人
日本薬学会



趣旨説明

- 日本薬学会 薬学教育委員会 委員長
中村明弘 (昭和大学薬学部教授)



4

日本薬学会主催
全国学生ワークショップについて

- 2006年度：6年制教育課程開始
 - 薬学教育モデル・コアカリキュラムは日本薬学会が主体となって策定
- 2011年度：卒業年度を迎えた6年制一期生が各大学から1名ずつ参加し、6年制カリキュラムを振り返る全国学生ワークショップを開催
- 2021年度まで11回にわたって毎年実施

5

日本薬学会薬学教育委員会主催
シン・全国学生ワークショップについて

- 本学会は、薬学に関する学術の進歩および普及をはかり、薬学関係者・会員の研究成果の発表および研修をする機会を提供し、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする（定款第3条）
- ワークショップのテーマを「**研究**」に変更
 - 研究に興味・関心を持つ薬学生が集い、研究やキャリアデザインについて討議
 - 6年制・4年制ともに参加可
 - 学年は2～5年次（各大学において判断）

6

「学位取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」(2022年11月開催)について

- 大学、医療機関および企業等で働く若手博士から、キャリアの現況やビジョン・ニーズ等を聞く
- 参加者：長井記念薬学研究奨励支援事業の採用者または全国学生ワークショップ参加者で博士取得者
- 「キャリアで感じる課題」：ロールモデルの不在
⇒「解決のアイデア」：自分たちがロールモデルとなる
- シン・全国学生ワークショップにロールモデルとして協力依頼⇒12名の先輩が協力者として参加

7

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

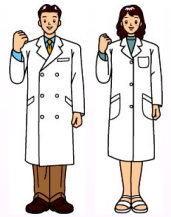
研究マインド

「研究が面白い、楽しいと思う気持ち」



8

文部科学省
薬学教育モデル・コア・カリキュラム
令和4年度改訂版



未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ
活躍できる医療人の養成

「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」

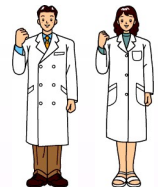
● 薬剤師として生涯にわたって研さんし続けて獲得する資質・能力

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. プロフェッショナリズム | 6. 情報・科学技術を活かす能力 |
| 2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢 | 7. 薬物治療の実践的能力 |
| 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 | 8. コミュニケーション能力 |
| 4. 科学的探究 | 9. 多職種連携能力 |
| 5. 専門知識に基づいた問題解決能力 | 10. 社会における医療の役割の理解 |

9

9

薬学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版



「科学的探究」

- 薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生
における課題を的確に見出し、その解決
に向けた科学的思考を身に付けながら、
学術・研究活動を適切に計画・実践し
薬学の発展に貢献する。

10

第1回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
博士を取得した先輩と共に考えよう」

研究マインド

「研究が面白い、楽しいと思う気持ち」



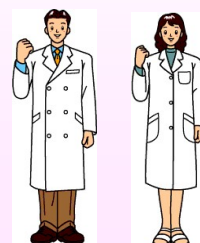
11



大学の枠組・学年を越えて

「研究マインド」で繋がろう！

- ・個人として参加：大学を代表する必要はありません
- ・お互いに「さん」付けて「〇〇さん」と呼びましょう



日本薬学会だからできる！

オール薬学・One Team

12

本日のプログラム

第1部 「薬学を学ぶ私の過去・現在・未来」

9:20 作業説明、World Café

第2部「私たちの研究マインド」

11:00 作業説明、先輩の研究マインド、Group Discussion

12:30 昼食

13:20 発表・討論

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

14:05 作業説明、先輩が歩むキャリア、Group Discussion

15:45 発表・討論

16:20 振り返り

16:40 全体まとめ・閉会あいさつ

17:00 閉会

17:00 自由交流

13

連絡事項

- 第二部・第三部の報告書（各担当者）およびワークショップ印象記の提出をお願いします。
 - 締切日：9月4日（月）
 - 提出先：日本薬学会事務局
- 先輩方のお話（第二部研究マインド、第三部キャリア紹介）は録画したので、後日、参加者に公開します。是非、他チームの先輩方の話も聞いて参考にして下さい。
- 本日17時からの自由交流タイムも楽しんでください。

14



セッション報告

第一部

「World Café」

テーマ

- 1 「私が薬学に興味を持った or 薬学を選んだ理由」
- 2 「今、私が薬学でやりたいこと、変えたいこと」
- 3 「これから私がやりたいこと」

第一部



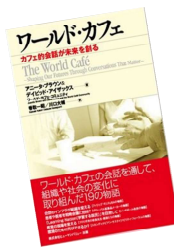
「未来を担う私の過去・現在・未来」

1

Ice Break

World Café

2



画期的な発想



3

World Café とは？

World Café はグループワークの一つのやり方です。

これから皆さんは、世界・時空を旅する「旅人」になります。旅人は、出会った場所で“おしゃべり”をして、また別の場所に旅立っていきます。今日は、旅をしながら3回のおしゃべりや落書きをします。

4

World Café では

たくさんの旅人と出会い、いろいろな人の話が聞けます。
(他花受粉)



新しい発想

5

時空を超えるWorld Cafeによろそ

- ・ 皆さんは、ワークショップの時空を旅する「旅人」です。
- ・ 旅人は、出会った場所で“おしゃべり”をして、また別の場所に旅立っていきます。
- ・ 過去・現在・未来を旅して、3回のおしゃべりをします。
- ・ 今日の旅を思いっきり楽しんでください！

6



時空Café Open



- ・4-5名のグループで「おしゃべり」を行います。
- ・テーマごとにメンバーを入れ替えます。
- ・テーブル毎に 司会役の「テーブルマスター」がいます。
- ・1回のラウンドは20～30分で行います。ラウンドが終わると、旅人（お客）は別のテーブルに移動します。

Cafeではフリースークを楽しみましょう

7

時空World Cafeからのお願い

飲み物・お菓子の準備はセルフです

- 積極的に「おしゃべり」をしましょう。
- 話は短く簡潔に、1人1分以内でお願いします。
- それぞれの旅人の話に耳を傾けましょう。



8



Table Masterのお仕事



1. 各グループの「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降では、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「前のラウンド」で印象に残ったお話を1分で紹介して下さい。テーブル担当のタスクフォース・先輩が作成したメモも利用可能です。その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。

9

ラウンド 1（過去）

「私が薬学に興味を持った」 or 「薬学を選んだ」理由

- ご自分の理由を皆さんに説明して下さい。 1分／1人
- テーマについて、自由におしゃべりして下さい。 終わりまで

Café time : 20-30分



10

時空の旅に出発



11

To the Pass



新しい仲間との出会いを楽しんでください

12

時空の旅はいかがでしたか？
どんな旅人と出会いましたか？



13

ラウンド 2



今、私が薬学でやりたいこと、変えたいこと

※全ての制限（時間的、能力的、金銭的、立場など）がないとしたら？
※固定概念を全て取っ払った先にやりたいことは？変えたいことは？

- ラウンド1の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。 **1分**
- 自己紹介を兼ねて「ラウンド1で印象に残ったこと」を紹介して下さい。 **1分／1人**
- 全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべりして下さい。 **終わりまで**

Café time : 20-30分

14

To the another world



新しい仲間との出会いを楽しんでください

15

2回目の世界の旅はいかがでしたか？



16

ラウンド 3



これから私がやりたいこと

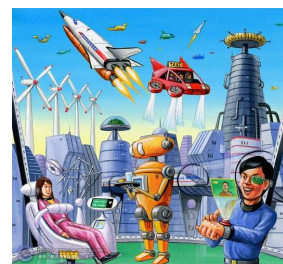


- ラウンド2の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。 **1分**
- 「ラウンド2で印象に残ったこと」を紹介して下さい。 **1分／1人**
- 全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべりして下さい。 **終わりまで**

Café time : 20-30分

17

To the Future



新しい仲間との出会いを楽しんでください

18

時空・世界の旅はいかがでしたか？



19



AM 11:00～ 第2部へ続く・・・
屈伸運動、お茶・お菓子を摂る等しっかり休憩してください^^

20



セッション報告

第二部

「私たちの研究マインド」

公益社団法人
日本薬学会

第二部 「私たちの研究マインド」

作業説明




1

2 第二部 「私たちの研究マインド」

1. チームの3人の先輩の研究マインドを聞いてみよう(P)。
2. グループ内のメンバーで研究マインドを共有しよう(SGD)。
3. 研究の魅力(面白い・楽しいところ)をリストアップしてみよう(SGD)。



2

3 スモールグループディスカッション 進行

1. 自己紹介をしてください。
2. 司会、記録、発表、報告書の担当を決めてください。
3. 司会者の進行に従って、研究に対する思いを語り合しましょう。
4. 研究の魅力(面白い・楽しいところ)をリストアップしましょう。



3

4 第二部 「私たちの研究マインド」

- 11:40 Small Group Discussion
- 12:30 昼食
- 13:20 発表・討論
各発表5分・質疑2分、総合討論10分
発表順:A→B→C
- 13:55 休憩(10分)



4

第二部 「私たちの研究マインド」

発表・討論

- 各グループ発表5分・質疑2分
- 総合討論10分

5



セッション報告

第二部

「私たちの研究マインド」

グループ報告書

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：1A

初めに我々はそれぞれが今の時点で感じている研究の魅力について考えを発表し、それらについて議論を行った。

班員には既に研究室に配属されて研究を始めている学生から、まだ研究室に配属されていない学生など様々な学年、環境の学生がおり多種多様な意見を聞くことができた。

それらの意見の中で我々に共通している認識や多くの班員が感じている研究の魅力として、研究自体の魅力、研究の土台となる知識の重要性、研究室メンバーとの関わりの三つが挙げられた。

研究自体の魅力として、テーマに沿って実験の計画を立てて実行し、結果を元に考察を行って次回の実験に活かすというサイクルを楽しいと感じるとの意見があった。何度も実験を繰り返すことによる手技の技術の向上とそれに伴う成果の安定といった、己のスキルアップに実験結果が伴ってくることにに対する魅力も挙げられた。実習のように決められた実験を淡々とこなすのではなく、主体的に実験を行うことができることに楽しみを見出している学生もあり、非常に共感できる点であった。

研究の土台となる知識の重要性として、実験や研究について考える上で基礎的な科学知識や薬剤に関しての知識が必要となる場面があるとの意見が挙げられた。研究をするために薬剤に関しての知識を深めていくことで、その知識を臨床の現場でも活かせるようになるのではないかとの意見も挙げられた。臨床の患者のことを想定した実験でも疾患や病態に関する知識が必要となり、薬剤や研究テーマについて多角的な視点を持つにはやはり基礎的な科学知識が必須であると考えられる。

研究室メンバーとの関わりでは、研究室では研究や共通のテーマについて議論をすることができることが魅力であると述べられていた。普段から交友を持つような友人とはまた違った視点を持つ学生がいることや研究室メンバーとの食事や歓談も楽しいとの意見もあった。所属する研究室内に留まらず、別の研究室の発表を聞くなどの交流の機会がある学生も見受けられた。

現時点での研究の魅力について議論した後、将来研究に対してどのような展望があるかについて意見を述べた。

異なった視点からの意見を得たいという声や、実験アイデアや研究テーマを自ら創出したいという意見が挙げられた。それ以外にも様々な背景を持つ人と交流を持ちたいという意見や、自分の名前が残るような成果を出したいといった目標を掲げる学生もいた。その他に知識を深める、より研究を深掘りしていくといった学び続ける姿勢を示す発言もあった。

学生同士で研究の魅力について考えを共有したことで、将来研究に対してどんな楽しみを見出したいか、何を求めているのかを改めて考える機会になった。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：1B

先輩方の研究マインドを参考にし、全員から意見を聞いてスライドにまとめた。

- ・ きれいな結果が出たとき、仮定どおりでも、違う結果になっても面白い。
- ・ きれいな結果がでると面白く、自分のやっていたことが正しかったことの確認になる。先輩や同期、同業者など近い分野の人とディスカッションすることで、いろんな視点を見ることができる。
- ・ 論文を読んで発表するサークルに参加しており、大学の先生も参加しているため、様々な意見を聞くことができる。教科書で習わないことが分かる。
- ・ 今、常識になっていることも、条件を変えてみると、より良い方法が見つかったり、今の常識が最も良い方法であることがわかったりするかもしれない。
- ・ 論文どおりに実験をしてみて、再現性が得られたとき。さらにちょっとずつ条件を変えてよい結果が得られたらやる気も出てうれしい。
- ・ 世界が変わるような発見をしたとき。

研究の一番の醍醐味は、まだ誰も知らない新しいことを発見することであり、好奇心が一番の原動力になるのではないかと。臨床に還元できたら本望。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：1C

〈要旨〉

研究の魅力を1Cグループの6名で討議した結果、研究の魅力は**ワクワク感・貢献**の2つのキーワードでまとめられた。

〈経緯〉

グループディスカッションは次の流れで進んだ。

1. 各自が自由に研究の魅力を話した
2. 実際に研究を行っている人を中心に自身の経験や気づきを共有した
3. 出た意見の中から意見の重なりを根拠に2つのキーワードを考えた（ワクワク感・貢献）
4. 発表用スライドの作成

〈ディスカッションの詳細〉

1. 個人の関心を軸に研究の良さを発表し合った。（発表スライド1）
基礎の解明・臨床上の問題点を解決し論文文化することで多くの人に研究成果を知ってもらい、薬学の発展に貢献できるという社会的役割の視点で意見が出た。また、過去の論文を精査し予想を立て、得られた結果から考察すること自体に知的好奇心が得られるという意見も出た。
2. 学年や研究の進捗状況、大学の方針に差があったため、実際に研究が進んでいる人に自身が経験した研究の面白さを語ってもらった。（発表スライド2）
ここではウェット研究を行う学生が中心となり、自分の研究テーマを含め具体的なキーワードを挙げて説明してもらった。これにより、研究の面白さを具体的なエピソードとして共有できた。
3. 1, 2を通して出た意見から「ワクワク感」と「貢献」の2つのキーワードを考え、意見を分類した。（発表スライド3・4）
ワクワク感の意見には、「法や制度に影響を与えることができるかもしれない」「誰もやったことのない実験をしている気づき」「新しいことの気づき」が分類された。
貢献の意見には、「症例報告から論文になることで治療に生かせる」「基礎の解明が薬学の発展につながる」「人類や未来の科学に貢献できる」「論文や学会発表を通して世の中に知ってもらえる」が分類された。
4. 発表スライドの体裁を整え、発表内容を再確認した。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：2A

私たち 2A は「私たちの研究マインド」というテーマのもと、研究の魅力について意見を出し合い、大きく「自分の中」の魅力と「社会に対して」の魅力という枠組みに分けてまとめました。

「自分の中」では、

1. 楽しい・知りたいと思ったことが研究できる。
 2. 自分の好きでやることなので、やりがいを持って取り組める。
 3. データに基づいて様々な考察をするなどの研究過程が楽しい。
 4. 道が定まっていないので、目標に対して様々なアプローチができることが面白い。
 5. 歴史に名が残せるかもしれないので、大きな夢が持てる。
 6. チームで取り組むことで、いい結果が出たときなどに、その喜びを共有できる。
- といった意見がでました。

「社会に対して」では、

1. 医療分野の発展を通じて、結果として社会貢献に繋げることができる。
 2. 後世の研究者たちや社会に対して役立つ何かを残すことができる。
- といった意見が出ました。

また、以上の意見について、「自分の中」という自己の魅力を追及し、個人ごとの掲げる目標を実現することが、結果として「社会に対して」の魅力の実現にもなることが分かりました。なので、2A の考えた研究の魅力については、スライドにありますように**自己実現**という言葉でまとめさせていただきました。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：2B

①実際に自分が行っている研究を話すなかで、それぞれの研究に対する考え方、感じ方（マインド）の意見を出し合った。出た意見は以下のようなものがあった。

- ・ラットの個体差 皮膚に関する研究。夏休み後半からうまくいかなかった研究へ再挑戦する予定（研究室配属後4年生）
- ・臨床研究 新しいことが数値として差が出るのが予想と反していること→差が出ていないからダメというわけではなく、その要因を考察、改善点への気づきなどを考えるのには「終わりが無い」（4年1月から（現在5年生））
- ・放射性薬品化学（イメージ診断など）：基礎研究をしたい。酵素に対する分子標的薬、診断薬の合成→失敗からの改善点にどのような指標を持とうか考えているところ（研究室配属直後（4年生））
- ・研究職、薬剤師業務どちらも行っていきたいが忙しさ、収入難による迷い。研究＜薬剤師を勧める人が多い。自身は抗がん剤の開発をやりたい。努力と研究の成果のつり合いがとれるように（3年生）
- ・研修期間（準備された実験）。線虫（モデル動物）を用いた実験→遺伝毒性などの治療へ活用。（4年生の初めから）モデル動物ではない線虫を用いる→違いが生じる

②①の結果をもとに研究の面白いところ、楽しさなどを列挙した。また、研究を行う中でつらいこと、嫌なことについても考え、それなのに楽しいのは何故なのか考えることでアイデアを出した。

<面白い・楽しいところ>

- ・一般的なものと違うものを見つけたとき
- ・夢中になれる、一つのことに集中できる→それが得意な人、好きな人にとって楽しい
- ・成功体験（最終的な目的とは違っても、作業工程内では成功している。）
- ・基礎実習で授業と実験の差異
- ・失敗から学びを得るのがうまい人が多くなる？

<研究が嫌になったとき、きついとき>

- ・結果が出るまで1年以上→失敗ではなく自身の予想と違っていただけ タイムパフォーマンスを研究に求めるのは難しい
- ・有意差が出ないとき。中央値的な差は出たからそこから何をいえるか、何が必要かを考えた
- ・線虫は生き物であるため、2～3週間でプレートを変える必要（2～3時間かかる）→作業が難しい、集中する必要がある、きつい
- ・マウスのハンドリングなど、大変だけど必要な作業

③話し合いをまとめた。

<研究の種を見つけたとき（予想外＝失敗？）>

例：モデル動物では A という結果だったが、野生種では B というふうになった→なぜ違いが？

<成功体験の積み重ね（過程）>

例：仮説通りではなくても、「仮説が偽である」ことはわかる

<新しい発見があったとき（結果＝成功）>

例：〇〇というものが見つかった。〇〇という機構がわかった。

全体として、失敗→改善→成功の過程が楽しいという意見にまとまった。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：2C

まず、簡単に自己紹介を行って、司会、発表、報告者を決めた。

その後、「あなたにとって、研究マインドは？」「研究で楽しいところは？」という話題になり、以下に挙げられた内容を列挙する。

- ・世界が広がる！
 - ・知らないことを知るのが楽しい
 - ・得られた結果を**考える(思考)**ことが楽しい！
 - ・論文を読んで新たな結果・手技・考え方を得られる！
 - ・論文**検索**で類似論文も出てくる⇒縦・横の繋がれる！
 - ・国際交流
 - ・失敗から学ぶ！失敗なんてない！
 - ・他の研究室との**交流**で新たな目線が広がる！
 - ・他の分野で活用されるかも！
 - ・専門性（世界で俺だけしか知っていない！）
 - ・競争を楽しむ！
- ⇒ 抽象化して分類分けすると「思考・検索・交流」になった

総括して、

グループ2Cとしての「私たちの研究マインド」として

「知らない世界を知るのが楽しい！！」⇒「研究で培った力が他の活動場所でも役立つ」という、まとめになった。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：3A

第2部は先輩方3人の研究に対するお話を伺い、その後グループディスカッションを行った。

- ・ 鹿山将さん 大学で研究をされており、どのような研究を行ってきたか、
研究の分野・テーマについて、研究に独自性を出すためのお話をしていただいた
- ・ 志田美春さん 企業に勤めており、研究はあくまで自分の目標を達成する手段でもあるという
お話をしていただいた
- ・ 田中達也さん 病院に勤めており、臨床と研究の両立についてお話をしていただいた

～先輩方のお話を聞いた感想～

- ・ 自分の経験や技術の積み重ねで研究の幅が広がることや研究を進める中で生まれた興味が連鎖的に派生していくことが分かった
- ・ 臨床で生じた疑問を研究に生かす結びつきが感じられた
- ・ 研究自体に興味がある人が多いが、手段として研究を用いている人もいることが分かった
- ・ 論文という形に残り、他者からの評価ももらえる点は楽しい点の一つであることが分かった

～グループで考えた研究の魅力～

- ・ 研究や実験を行うことで薬の効果が目に見える・身近に感じることができる点
- ・ 自分に身近なものから研究のきっかけになる（例：カフェイン飲料と心臓の関連）
- ・ 自分でしかできない領域・理論が出来てくる（独自性）
- ・ 探求していくことの困難もあるが大きな達成感も得られる
- ・ 国際学会などに参加することができ、より理論の強度が高い研究に触れられる点

～先輩への質問～（3Aグループでは鹿山さんにお話を伺いました）

Q. 研究を始めるきっかけはなにかありましたか？

A. 研究をしていた先生方が楽しそうだったから。最初から具体的なビジョンがなくても興味を持って、一生懸命取り組めば周りの人が助けてくれる。

Q. 専門分野を生化学から神経生理学に変えたとのことでしたが決め手はありましたか？

A. 実験を進めていく中で生じていた疑問を解決するには神経の分野が良いと考えたため。

また、一つの分野の中では他にもプロフェッショナルの先生方は多い、他の分野を扱うことで生理学と神経の融合が可能となり、自分の独創性出せると考えたから。

Q. 実際に研究を進めてみて感じたギャップはありますか？

A. 薬を作りたいと思っても一人ではできないし、形になるまでは時間がかかるということに気が付いた。多くの人の知識を集めて薬が出来上がるイメージへと変わった。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：3B

今回は1.研究の必要性、2.研究の魅力（面白い・楽しいところ）、3.研究の意義の3つに大別してディスカッションを行った。

1. 研究の必要性

まず、薬学部における研究の必要性について以下の意見が得られた。

薬学部卒業後の進路は薬剤師、開発職、研究職、行政など多岐にわたる。

研究に直接かかわる職業につかなくても、研究を通して課題発見能力を身につけることや分からないことを分かるようにすること、また実際に装置に触れることで仕組みを理解することなど、研究を通して得られる力は臨床の場でも求められる。

2. 研究の魅力（面白い・楽しいところ）、

次に、研究の魅力について以下のような意見が得られた。

・人によって違う研究の捉え方

研究が楽しく目的となる人もいれば、研究を手段として考えている人もいる

例) 研究を活かすことのできる就職先にいきたい

就職のためではなく研究がしたい

国家試験の合格率が高い研究室で研究したい

→将来どうなりたいかで研究室選びが変わってくる

・未知の事象を解明する楽しさ

・研究成果が多くの人役に立つ喜び

・結果をもとに試行錯誤していく楽しさ

・興味や関心のある事象を深く究めることができる

例) アレルギーについて興味がある

生物に興味があり研究の成果で多くの人を救いたい

親戚に糖尿病患者がいてその研究に携わりたい

3. 研究の意義

最後に、薬学部での研究の意義として以下の結論が得られた。

研究の意義は多くの人を救うこと。

基礎研究も臨床研究も突き詰めていくと人を救うことにつながる。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ: 3C

1. 研究マインドとは

<SGD の経緯>

研究マインドに関する先輩方の講演を踏まえ、どのような研究マインドが挙げられるかグループ内で話し合った。議題について司会、発表、発言者、記録の順に意見を出し合い、意見をまとめて発表用のスライドを作成した。それぞれの研究マインドについて意見を上げる際、研究の過程と結果で感じる魅力に分けて議論を行った。グループ内で得られた意見を以下に記す。

<過程>

- ・失敗を突き詰める過程を楽しむ
- ・普段使わない機器の操作など、実験自体が楽しい
- ・研究に終わりがいないところ
- ・他分野とのコラボ
- ・未知に対して試行錯誤して開拓していく楽しさ

<結果>

- ・結果が出ることに喜びを感じる
- ・得られた結果から疑問が広がる
- ・疑問点について模索したり調べたりすること
- ・わずかな条件設定の変化で結果が変わるところ
- ・結果から原因を考察するところ

また、話し合いを進めていくなかで、それぞれがどのような動機で大学の所属研究室を決めたのかという話題も挙がったため、得られた意見を以下に記す。

<研究室に入ったきっかけ>

- ・生薬について学びたい
- ・一卵性双生児（遺伝子、ホルモン）について研究したい
- ・同じ研究室内で化学と生物をどちらも学べる/両方を兼ね備えた人材になれる
- ・より基礎研究が学べる分野で研究をしたい
- ・微生物に興味がある

2. 研究マインドについての議論を踏まえて

続いて、先輩方から伺った講演の内容とそれぞれの研究マインドを踏まえ、講演の感想や将来の展望について語り合った。以下が発言のまとめである。

＜講演の感想および研究マインドを踏まえた将来の展望＞

- ・「研究はあくまで手段であり、目的ではない」という講演を聞き、研究について広く考えることが大事だと感じた。
- ・講演の内容を踏まえて第三者に評価される視点が重要であると感じたため、将来は自分の研究を論文として発表することで、第三者の目に触れる機会を得たい。
- ・魅力を感じる研究分野において、研究を通して新薬開発の一助を担いたい
- ・研究者や臨床現場の医療従事者と協力して研究したい

グループ内での意見を総合すると、どの発言者も「**自分の研究が社会的に役に立ったり、誰かの役に立ったりしてほしい**」というマインドを根底に持っていることが分かった。

3. 報告者の考える検討事項

今回の SGD では、初めての開催かつお互いが初対面ということもあり、話し合いの時間配分や発表のための準備時間の確保にグループ内で悩む場面があった。そのため、個人的な意見ではあるが、話し合いのための時間と発表用スライドを作成するための時間を別々に設けていただけると、活発な議論や円滑な発表準備がより可能になるのではないかと考える。また、短時間で見やすいスライドを作成することは難しく感じたため、より詳細なフォーマットを準備していただくか、話し合いからスライド作成までの時間を倍にいただけると発表を聞く側も分かりやすくなるのではないかと考える。もう一点、スライド作成に関しては、3C のグループ内にはグーグルスライドを扱ったことのあるメンバーがおらずスライド作成に苦慮したため、事前にグーグルスライドを使用する課題などを出していただけるとスムーズな発表準備が行えるのではないかと感じた。これらはあくまで個人的な意見であり、主催者の方への要求が多くなってしまったため、無理のない範囲で改善していただけると幸いである。

4. 第2部のまとめ

SGD を踏まえて、3C のグループでは誰もが研究に対する興味や関心のある分野を持っていることが分かった。話し合いが進んでいくなかで、それぞれの研究分野について知ることができ、互いに知見を深めることが出来た。また、3C のグループ全体の傾向として、知的好奇心や貪欲な探究心が研究マインドに繋がっていることも分かった。最後に、今回のワークショップで得た学びを活かし、各個人の研究によってそれぞれが思い描く社会が実現されることを願う。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：4A

4Aでは班員の中ですでに研究をはじめている人が二人であったため、イメージではあるが研究分野によって魅力があるということで討論を行った。

初めに、創薬と育薬の二つの考え方から基礎研究と臨床研究に分けてそれぞれの魅力について意見を出し合い、その二つの共通事項を出した。基礎研究については、何もない「0」というところから新しいものを創る「1」という創薬は達成感を感じることができるという意見があった。新たに生み出す以上、長期的になるため自分の興味関心のある分野を追求することや論文をもとに実験系を解いていくことが好きである人にとって大きな魅力である。大学2、3年生で行った答えや方法が決められている実験とは異なり、継続して実験をする中で、得た知識から研究の方法論を試行錯誤することができる。また、授業で出てきたことを実際にできることでより深く探求できることが面白く感じられると考えた。研究を行っている中で、別の新しい発見が今後役に立つなど偶然の産物（セレンディピティ）が生まれることがあるということにも面白さがあるという意見もあった。

臨床研究については、基礎研究の上に成り立ち、基礎研究の結果によって創られた「1」を「10」や「100」というようにより良く、問題を少なくしていくものであるという考えに至った。承認を受けている薬であるため患者さんに受け入れられやすく、臨床における問題を解決することで患者さんに直接還元できることから現場で反映されるまでのレスポンスが早く、やりがいがありやすいという意見があった。

この二つの研究分野の共通事項として、研究に興味を持ち自分の中で出た疑問を自分で解決することや答えのないものを自分で探すことによって、結果がでたときや評価されたときは喜びや楽しさ、やりがいを感じることができる。社会で求められている問題を解決していくことで、最終的に世の中へ貢献ができると考えた。これらのやりがいを感じるためには、物事に疑問を持つことや基礎知識や論文を読む力を習得することが必要であると考えた。初めは研究に興味がなかったり、先を曖昧に考えていたりしていたとしても他者からの影響やマインド変遷による影響から研究に興味を持つことがあるため、それを行っていくためには自分がやりたいと思う気持ちが大事であると考えた。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：4B

4B グループでは、はじめに、学生およびタスクフォースの方々に研究の魅力について、各々の考えを出してもらった。ここで挙げられた研究の魅力は以下のとおり。

- ・講義で学習した内容を超えて、専門とする分野の深いところまでつき詰めていくことができ、面白い。
- ・白衣を着て実験する姿や、様々な実験装置・器具・試薬を駆使している姿が、傍から見ると何しているかわからないこともあるが、カッコいい。
- ・内容のつながりや、いろいろな要素の関わりに対する気づきは、謎解きにも似ていて面白い。
 - ・講義で得た”点”（＝知識）を線で繋げる。
 - ・自分で考える力や、コミュニケーションによる知識の共有が大事。
- ・キャリアアップにつながる。
- ・わからないことがわかるようになるのは楽しい。
- ・論文ができる喜びを得られたり、やればできるが自信になったりする。
- ・ものづくりが好きなことが、新しい化合物の追求への意欲に繋がった。

また、挙げられた魅力の中で内容の類似性や関連性でまとめていったところ、「カッコいい」という点でつながるのではないかとの考えに至った。そこで、「カッコいい」をキーワードとして、さらに意見を出し合い、集約し、スライドにまとめた。発表の軸として、以下の3点にまとめた。

- ① 白衣を着て実験する姿や、様々な実験装置・器具・試薬を駆使している姿がカッコいい。
- ② 専門性が高く、内容の深い知識を持っていたり、探求心を持って研究に励んでいたりする姿はカッコよく、さらにその結果として新たな答えが得られるのはカッコいい。
- ③ 新薬ができれば患者にとって利益になったり、あるいは新たな知見が別の研究者にとって研究・問題解決の糸口になったりするなど、得られた結果は誰かのためになるのはカッコいい。

第2部「私たちの研究マインド」

グループ：4C

私たちの班では、研究マインド（研究の面白さ）として1人ずつ意見を出していった結果、

- ・自分の興味があることが出来るのでモチベーションが高い
- ・自分のアクションに対してリアクションが返ってきて、その理由の考察の幅がある
- ・人のモデルとしてマウスを使っているが、実験で人とは違う動きを示したりすることがある
- ・その逆で人とマウスで同じ反応が見られると臨床とつながっていると感じられる
- ・研究は結果が分かっていることについて行うので自分が第一発見者になれる
- ・座学だけでなく実際に手を動かせるし、学んだことが生かせるとつながりが感じられる

といった意見が出た。ここで一旦意見が出揃ったので、先輩である小林由希さんに研究に没頭した理由について伺ったところ、

- ・自分がしたことが評価されるとうれしいし、自信につながる
- ・自分だけの答えが見つけれられる
- ・周りの先生や同じ博士進学者に恵まれた

といったお話が聞けた。そのことを踏まえてさらに議論していき

- ・専門分野の教授とのディスカッションでスキルを高めたり、専門分野の人と関わることで見識を広めたりできるので、自分の将来に役立つ
- ・研究活動を通じてさまざまな人と関わることで、自分の就職先などの視野も広がる

などの意見が出た。また、自分が研究室を選んだ理由の面から研究に魅力を感じた部分を話し合ったところ、

- ・自分に合う薬を作りたいと思って研究室に入ったら、自分とは違う視点の意見も貰えて面白いと思った
- ・授業で興味を持った分野の研究室に入ったら教科書通りではない手法を用いており自分もそうしたいと思った

といった意見が出た。ここまでの魅力は細胞や生物を用いて実験をする分野が中心であったため、データを用いた研究の魅力についても考えてみることにした。その結果、データ研究の魅力としては

- ・論文や症例を集めて患者背景と照らすことでリスク因子などの関連性が浮かび上がってくる
- ・原因が分かれば解決策が分かるため、多くの人の助けになれる
- ・薬学教育の研究では後進育成にも携わることが出来る

といった意見が挙げられた。これらをまとめると、班員は

- ・多くの人の助けとなること
- ・授業では受け身だったが、研究では能動的に動けること
- ・未知の物事を知り、第一人者となれること
- ・自分の将来のビジョンが広がること

に研究の面白さを感じていた。



セッション報告

第三部

「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

公益社団法人
日本薬学会

第三部 「研究マインドを活かす キャリアデザイン」 作業説明




1

第三部 「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

1. 3人の先輩が歩んでいるキャリアを聞いてみよう(P)。
2. 研究マインドを活かせるキャリアをリストアップしてみよう(SGD)。
3. 各自でキャリアプランを立てよう(個人)。
4. グループ内のメンバーでキャリアプランを共有しよう。



2

スモールグループディスカッション進行

1. 司会、記録、発表、報告書の担当を決めてください。
2. 司会者の進行に従って、研究マインドを活かせるキャリアをリストアップしてみよう(SGD:20分)。
3. 各自でキャリアプランを立てよう(個人:10分)。
4. グループ内のメンバーでキャリアプランを共有しよう(SGD:20分)。

3

第三部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」 研究マインドを活かせるキャリア

グループ
IA

「キャリア=職業・仕事」と捉えてリストアップするのではなく、「**キャリア=働き方・生き方**」と捉えて、「そのキャリアで何を達成したいか」「何を重要視して働いて(あるいは生きて)いきたいか」というような方向で議論して下さい

4

第三部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」 私の研究マインドを活かすキャリア

イニシャル
or
ニックネーム

時 期	研究マインドを活かして何を?	どこで?
卒業まで		
卒業5年後		
卒業10年後		

5

第三部 「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

- 14:45 Small Group Discussion
- 15:35 休憩
- 15:45 発表・討論
各発表5分・質疑2分、総合討論10分
発表はリストアップしたキャリアと特徴的なキャリアプラン
発表順:B→C→A
- 16:20 振り返り




6



セッション報告

第三部

「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ報告書

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：1A

今回の第1回シン・全国学生ワークショップの第3部では、他大学の方と研究マインドを活かせるキャリアについてスモールグループディスカッションを行った。本報告書では、その際に出てきた意見や考えに至った経緯についてまとめたものである。

1. 研究マインドを活かせるキャリア

はじめに、各々が考える研究マインドを活かすキャリアデザインについて意見を出していった。それらを大まかに3つに分類することができた。

1つ目は研究と臨床の両立である。実際に臨床の現場に関わることで、患者に添った研究テーマや疑問が見えてくる。これらを探求することで研究と臨床の差がより縮まり、患者にとってより良い方向に医療が発展していくと考えられた。これを実現する具体的なキャリアについては、臨床で働きながら学会発表への積極的な参加や、社会人大学院生として博士号の取得を視野に入れるなどが挙げられた。

2つ目は企業や病院、大学院など様々な場をキャリアに生かすということだ。志田さんの話からも分かるように、薬学のキャリアは幅広い。また、それぞれの活躍の場でしか得ることのできない経験や気づきがある。これらのことから、キャリアデザインの際に働き方をひとつに制限するのではなく、広い視点を持っていくつかの活躍の場を組み込んで考えることも大事になってくるのではないかと考えられた。医療が進化していくこれからの時代では、どこで働くにしても研究マインドは必要とされると予想できる。自分自身のキャリアを進みながら基礎を固め、意義のある研究テーマを見つけていきたいという意見も挙げられた。

3つ目は後続の世代へ研究の楽しさを伝えるということだ。どの分野においても、次に続く若い世代の教育は重要な項目であるといえる。グループの中にもすでに高校や大学における後進の指導を視野に入れたキャリアを考えているメンバーがいた。高校などにおいて研究の魅力や詳細について知る機会は少ない。そのため、研究職に就いたのちに教員となり、高校生という若い世代に早い段階で研究の楽しさを伝えることは非常に効果的で、次世代の研究者を目指し人材の獲得につながると考えられた。

また、アカデミアにおいて教育に携わるとしても関わり方はそれぞれだ。2つ目とも関連するところもあるが、病院や企業で研究を行った後に大学に戻り、それらの経験を生かして教育に携わるという意見も出た。大学にはまだ進路を悩みつつ研究を行っている学生も多い。このように大学以外での研究について詳しい人材は必要であると考えた。

以上が今回の討論で研究マインドを活かせるキャリアについてでた意見およびその経緯である。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

次に、メンバー1人1人が思い描く研究マインドを活かすキャリアについて考えた。そこで出たキャリアは三者三様で、他の人の案から多くの刺激をもらえるような討論となった。

キャリアデザインは卒業まで・卒業5年後・卒業10年後と区切りをつけて考えた。

まず、卒業までに関しては、大学卒業後に必要となる知識・技能の習得や学会発表などを目標にして研究に取り組みたいと考える人が多かった。また、学部生の間に自分のやりたいことについてよく考え、見つけたいという意見もあった。時間や講義を受ける機会などがある今だからこそ、自分が考える将来を見据えて思考することが大切であるということが、これらの意見から分かったことである。

卒業5年後は、メンバーそれぞれで臨床と研究の比重や活躍したい場が異なっていた。臨床に関わりつつ博士号の取得や学会発表にも力を入れたいと考えている方や、企業や大学でそのまま研究自体を続けていきたいという方もいた。

博士号の取得については、研究自体の魅力から大学院で研究を行いたいという意見のほかに、将来のキャリアの幅を増やしたいといった意見も出た。世界中で研究は行われており、海外でも通用できる人材になるために博士号は欠かせない。また大学の教授や病院の薬局長、特定の企業への就職にも必要となる。これらのことから、大学院に関して前向きにとらえている発言が多かった。

最後に、卒業10年後はさらに研究や臨床においてキャリアを磨いていくことのほか、教育に携わっていききたいという意見も新たに出てきた。先ほどの研究マインドを活かせるキャリアについての討論で出た考えともつながっている。教育に関わりたい理由としては、教えること自体が好きであるということや、研究を通じた人とのコミュニケーションの楽しさが挙げられた。

以上が今回の討論で「私の研究マインドを活かすキャリア」について出た意見及びその経緯である。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：1B

第3部では、第2部のディスカッションで考えた研究の魅力を生かすことが出来るキャリア（働き方、生き方）にはどのようなものがあるかについてのディスカッションと卒業まで、卒業5年後、卒業10年後という視点から具体的にどこで研究マインドを生かして何をするかについてのディスカッションを行った。

1. 研究マインドを活かせるキャリア

研究マインドを活かせるキャリアとしてディスカッションの中で次のような意見が挙げられた。

- ・企業で研究職に就く
- ・大学で教員職に就き、後進の育成をしながら自分の研究をする
- ・海外へ留学し留学先の研究室のポスドクに就く
- ・研究を通して探求心や向上心、忍耐力などの研究プロセスを臨床現場に出た際に生かす
- ・必ずしも企業の研究職に就く必要はなく、病院薬剤師や薬局薬剤師として働くことで研究マインドを患者さんに還元することもできる

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

初めにディスカッションを行ったメンバーがそれぞれ考える研究マインドを生かすキャリアについて表に記載した。その内容をまとめると次のようになった。

卒業までに行いたいことは、研究室での実験を通して正しい実験手技を身に着けることと今行っている研究で成果を出すことが挙げられた。そのために研究論文の読み込み、学会での発表や積極的な学会への参加、研究室メンバーとのコミュニケーションを取るなど様々な人の意見、知識を取り入れていく必要がある。次に実務実習を通して実際に患者さんに接することで得られる研究課題を見つけることが挙げられた。

卒業から5年後までに行いたいことは、1つ目に大学院へ進学し、文献調査から独自の視点から疑問点を見つけ仮説を立て、実験、考察を行い、それを通して得た成果を論文やポスターにし外部に発信することが挙げられた。2つ目に病院薬剤師として働く中で、卒業までに得た様々な知見や働く中で身に着けた経験、技術を基に患者さんに臨床現場で還元することが挙げられた。

卒業から10年後までに行いたいことは、大学教員として後輩の育成に努めながら独自の研究分野を確立することや、製薬関連企業や食品関連企業で研究者として働くことで世の中に自分の研究を還元することなどが挙げられた。

特に、5年後、10年後にどこで研究マインドを生かすかについては、学部卒業後大学院に進むことや大学院には進まず病院や薬局に就職するなど様々な意見が上がった。研究に興味はあるが、学部6年+大学院4年ないし学部4年+大学院5年通うことは、将来を考える上で不安が大きいことから大学院進学に後ろ向きの意見もあった。5年後、10年後の就職先は企業や大学、病

院、薬局など様々な選択肢があるが、一生同じ職場で働き続ける必要はなく、転職をして数年おきに様々な職場を経験することも1つの選択肢として挙げた。また、学部を卒業後すぐに大学院に進む以外にも病院で働きながら大学院に通うという選択や、卒業後就職し社会人としての経験を積んでから大学院に進むという方法も挙げた。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：1C

1. 研究マインドを活かせるキャリア

〈要旨〉

研究マインドを活かせるキャリアデザインを1Cグループの6名で討議した結果、

①やりがい・生きがいを得られる②自分の能力を活かす③社会貢献という3つに大別することができた。

〈経緯〉

グループディスカッションは次の流れで進行した。

- ①各々が考えるキャリアについてリストアップ
- ②意見を3つのカテゴリーに分類
- ③発表スライドの体裁を整え、発表内容を再確認

〈ディスカッションの詳細〉

- ① 薬剤師を目指したきっかけについて意見交換を行った。
- ② どの職場に行っても観察⇒分析⇒仮説⇒実験⇒考察のサイクルの中で文献調査や患者観察から気づき、得られたデータから問題を解決する研究マインドが役に立つという意見が出た。
- ③ 自立した研究を目標として研究を行い、探求心を育成するとともに、次世代を教育する者としてサイエンスの楽しさを伝える働き方もあるという意見が出た。
- ④ 研究に基づいた討論がカンファレンスや日常業務において役に立つという意見も出た。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

〈要旨〉

それぞれが1.研究マインドを活かせるキャリアについて話し合ったことを参考に、キャリアデザインを作成したところ、卒業までに研究活動を通して知識や問題解決能力、技術力や薬剤師が活躍できるフィールド探索を行い、卒業5年後には大学院に進みさらなる高みを目指す者や臨床現場において経験を積んだ後に大学院進学を考える者と様々な意見が出た。

〈経緯〉

グループディスカッションは次の流れで進行した。

- ①キャリアデザインを各々記入
- ②自分の研究マインドを活かすキャリアデザインについて発表
- ③質疑応答を行い、それぞれの考えを深める
- ④発表スライドの体裁を整え、発表内容を再確認

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：2A

1. 研究マインドを活かせるキャリア

第3部の「研究マインドを活かすキャリアデザイン」においては最初に研究マインドを活かせるキャリアをテーマとした。研究マインドを活かせるキャリアについての議論内容を以下に記載する。

【議論の主旨】

博士を取得した先輩をロールモデルとし、研究マインドを活かせるキャリアについて話し合う。

【議論の方法】

司会者の進行に従いグループ2Aの6名でSGDを約20分間行い、各々が考える研究マインドに活かせるキャリアについての意見を順に出し合い司会者が意見を総括した。

【議論の内容】

議論によりリストアップされた各々の意見を以下に示す。

- ・ベンチャー企業から大企業へと研究の橋渡し、コンサルなどの視点から薬学に貢献。
- ・やりがい重要視、後世の教育に携わりたい、臨床現場を経験しつつ研究活動。
- ・自分の目的と合致する形で研究に携わりたい。
- ・大学生としてできることに(勉強も勉強以外も)全力で挑戦、臨床と基礎研究の両立。
- ・女性の人生設計と研究の両立、アドヒアランスの向上、薬の固定概念を覆す。
- ・高い精神力と継続力を持って研究に取り組む。

グループ2Aでは研究マインドに活かせるキャリアについて以上の意見が挙げられた。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

第3部の「研究マインドを活かすキャリアデザイン」においては研究マインドを活かせるキャリアの次に、私の研究マインドを活かすキャリアをテーマとした。私の研究マインドを活かすキャリアについての議論内容を以下に記載する。

【議論の主旨】

博士を取得した先輩をロールモデルとし、私の研究マインドを活かすキャリアについて話し合う。

【議論の方法】

グループ2Aの各自でキャリアプランを約10分間考えた。次に、各自が考えたキャリアプランについて司会者の進行に従い順にグループ2A内で発表し、グループ2Aの6名でSGDを約20分間行い、各々が出した私の研究マインドに活かすキャリアについての意見を司会者が総括した。

【議論の内容】

第3部の1.研究マインドを活かせるキャリアで各自が出した意見をもとに在学中、卒後5年、卒後10年におけるキャリア形成の見通しについての議論が展開された。

議論では、それぞれのステージにおいて、各自が研究マインドを活かして行いたいことについての意見が挙げられた。

各自が考えた具体的な内容はワークショップのプロダクトとして記載するが、本項においてはその中でも特に議論中に取り上げられた意見について以下に示す。

〈卒業まで〉

- ・ ラボでの実験を行いつつ研究活動に必要な視点や考え方などの素養を身につける一方で、薬学科での実習等を通して臨床現場で求められる製剤の利便性等の観点からも問題提起ができるようになることを目指す。(所属先のラボ、実習先)

〈卒業5年後〉

- ・ 女性としてのライフプランとの両立をはかりながら、苦味マスキング顆粒の製剤技術の確立と苦味が問題となる薬剤全般に適応できるような汎用性の高い製剤技術の開発研究に尽力したい。(企業もしくは大学の研究室といった教育機関)

〈卒業10年後〉

- ・ 自分のテーマに沿って基礎研究と臨床研究を両方できるような研究者兼薬剤師として働く。(研究所、ポスドク先、病院の薬剤部)
- ・ PIとなるための実績を積みつつ、研究活動に加えてラボの運営や人材育成の能力を身につける。(所属先のラボ)

グループ2Aでは以上の意見が議論の中心となり話し合いが行われた。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：2B

<班の意見>

「できるだけ多くの人に貢献できる研究がしたい」

- ・患者に一番近いのは市販薬→製薬企業。
- ・基礎研究だけでなく、より直接的に貢献できるものとして臨床研究がある。

「患者が一番大切」

- ・薬の適正使用→皮膚関連の研究であれば化粧品関係のキャリアもある。

皮膚関連で困っている人に対して症状を緩和できるものを発見し、患者を第一に考える。

「新しいことを知る」

- ・様々なことに挑戦できるような働き方をしていきたい。医薬品に限らず、食品や化粧品などの分野にも触れてみると視点が広がる。

知らないことを知る努力をする、論文を読んだりして他者の意見を取り入れ、考え方のブラッシュアップを行うことで常に最新の情報を入手していく。

<その他に出た意見、班の意見の根拠となる意見>

- ・人類に貢献、自己投資
- ・研究自体は薬局などでもできるので、働く場所はあまり関係ない。研究ではなくても研究のマインドは活かせる。
- ・投資として何事にも挑戦
- ・オリジナリティーの確立
- ・今後、人類の役に立てる。自己投資。
- ・研究と薬剤師業務の兼務は厳しいのでは？→没頭することもできる。研究にも多様性。
- ・オリジナリティー、自身の価値を高める→共通部分を増やす、狭めていく
- ・研究か就職。留学などによって様々なテーマに関わることができる。
- ・モデル動物の例以外の研究にも違いの発見（研究の種）は活かせる。
- ・研究の延長線上に研究マインドを活かせるキャリアがある。
- ・気づき、発見が楽しいから、それをできるような働き方をしたい→どのような研究職についても、様々なことに挑戦することを軸にして生きていきたい。海外留学や他の分野にも目を向けてみる

新しいことを見つけることによる自己研鑽というワードが多く挙げられた。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：2C

1. 研究マインドを活かせるキャリア

まず、研究マインドを活かせるキャリアについて、思い当たる職種を挙げた。大学での研究者、企業での研究者や治験担当者、病院に勤めながら研究を行う人、病院薬剤師や薬局薬剤師、「仮説⇒検証」のサイクルを活かせる職種が挙がった。大学の研究者は、研究に専念できる職種として挙げられた。また、企業に就職して研究をするという意見も出た。ここで、研究をする場として大学と企業の違いは何かを考えたところ、大学では自分のやりたい研究を自分のペースで進められるが、企業では利益を考慮する必要があり、継続的に研究を続けることが難しいという意見が出た。一方で、大学で研究するにしても、上からの圧力や世界との競争の中で研究するため、いつも自分のやりたい研究を自分のペースでできるわけではないということも知った。他のキャリアには、薬剤師免許を取るからには薬剤師として働きたいという考えから、病院薬剤師や薬局薬剤師が挙がった。病院薬剤師は、調剤薬局では扱えないような重たい疾患も扱えることや、治験にも関与できることが、研究マインドを活かせる点であるという意見があった。今の薬剤師は研究もできることが重要であるという話し合いもした。働く場が病院であっても薬局であっても、薬剤師が研究できることは、「薬剤師不要論」への対抗策である。研究ができる薬剤師として求められることは、副作用の改善や服薬アドヒアランスの向上の分野だと考えた。病院薬剤師が研究をするのは、忙しすぎるため日勤業務との両立が難しく、メカニズムの解明や基礎研究は大学で行い、病院では臨床に関する研究を、という意見もあった。研究職に就きたいとは思っていないけれど、研究マインドは他の職種でも活かせるという意見も出た。ここでいう研究マインドは、具体的には問題解決能力や、仮説から検証のサイクルのことを指す。この話し合いを通して、研究マインドはどこの職種でも活かせることを確認できた。

次に、具体的に研究マインドを活かしてどのようなことをしたいのかについて話し合った。病院薬剤師・薬局薬剤師の場合、副作用のモニタリングを行い、副作用を抑えられる調剤や薬の開発に携わりたいという意見や、大学と病院の連携・橋渡しがしたい、臨床とアカデミアの橋渡しがしたいという意見が挙がった。創薬の種を発見するベンチャー企業とM&Aを行う製薬会社の仕事も、大学院を出ていることが活きるという話もあった。薬剤師という資格を使って働く病院薬剤師や薬局薬剤師は、実際に薬を服用している患者と近いため、観察力など研究で培ったスキルを活かして、副作用による負担を減らせるような工夫ができると考える意見が出た。また、服薬コンプライアンスを改善することに携わりたいという考えもあった。剤形が錠剤以外に無い薬剤を貼付剤や散剤にする工夫を企業と共に行うことや、臨床で問題となっていることを拾い上げて臨床に還元できるような研究を行うための橋渡しのような存在になることにおいても研究マインドを有している人が活躍できるという意見が出た。介護分野への薬剤師の介入についても話し合った。デイケアなど、薬剤師は常駐することはないが、時々思いもよらない服薬の仕方をする人もいる中で薬剤師が存在することの必要性を考えた。例えば、栄養士はより良い食事指導を行えるが、それに対しての加点はないため、経営者は積極的に栄養士を雇いたいとは思わないだろう

う。役割はあるのに、金銭的に必要とされないこともあるということを話した。

最後に、資金・権力が豊富にあれば、どのようなことを望むかについて話した。薬剤師が研究することを求められている中で、加点が付けば、研究意欲の向上や環境整備が望めるだろうという考えから、薬剤師が研究をすることに対して加点が欲しいという意見や、創薬できる AI を開発したいという意見が挙がった。研究自体はこれから AI やロボットにとって代わられてもおかしくないという中で何ができるかを考え、薬を開発する AI を開発するという意見が出た。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

まず、1.で話した内容に最も沿っていた学生のキャリアは、卒業後までは研究室で与えられたテーマについてしっかりと研究する。病院実習中に臨床をしっかりと学ぶ。クラスメイトの研究も知る。卒業 5 年後には病院または企業で、CRC や CRO または病院の治験担当部署などで治験に携わる。卒業 10 年後には病院または企業で、薬剤師主導の治験が制度的に出来るようになっていたら治験を行ってみたい。制度的に無理だったら、せめて医師に提案して治験してもらえぐらい信頼を得たい。というものである。医師と対等に医療に従事するためにも、研究マインドが活かされるキャリアである。

他の学生の考えたキャリアは、卒業後までは卒業研究を行い、薬剤師免許を取得する。卒業 5 年後は病院薬剤師などとして臨床で働きつつ、臨床での問題点、(例えば副作用)を発見し、それを解決するための研究などの手段を考える。卒業 10 年後は、病院の中で治験などに関わる業務を行う。業務を行う中で問題となることを実際に研究する。というものである。この学生は、地域医療に関わりたい、臨床で働きたいという考えを持っており、そこに研究マインドが活かされるキャリアである。

また別の学生は、卒業までは研究室での研究活動を充実させる。イベント等で研究室外(他研究室)との交流を行う。卒業 5 年後は研究活動と人生の方向性の模索を行う。卒業 10 年後は世界で戦える研究者になる。というものである。「どこで?」に対しては、発展が急速であるグローバルサウスについて着目している様子であった。

別の学生は、卒業までは基礎研究を通して手技や考え方を学ぶ。自分の研究を論文化することで、次世代の研究者に貢献する。卒業 5 年後には病院薬剤師として、副作用モニタリングを通して、副作用の少ない薬の提案や副作用に対する薬の開発提案を行う。卒業 10 年後には、薬学ゼミナールで、それまでに培った問題解決能力により自分の授業の問題点を挙げ、改善点を見つける。というものである。教えるのが好きということから描く将来に研究マインドが活かされるというキャリアである。

別の学生は、卒業までは卒業研究と研究室内外の人との交流を行う。卒業 5 年後は大学院へ進学し、自分の強みになるような研究を進める。海外へ研究留学する。大学病院等の医療の現状を知る。卒業 10 年後は、大学病院で病院薬剤師として働きつつ、臨床で問題となっていることをピックアップし、アカデミアとつなぐ橋渡しの存在になる。もしくは、大学教員となり、解決が必要な臨床問題に対する研究を行う、というものである。海外でも研究マインドは磨けるということを意識したキャリアである。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：3A

1. 研究マインドを活かせるキャリア

私たちはキャリアをリストアップする前に、お話をしていただいた御三方の研究マインドについて話し合った。

○研究マインド

- ・薬学部特有の多様性から生まれる独創性

薬学部では幅広いことを学べるが、どれも中途半端になってしまうのではないかとマイナスなイメージを持つことがある。しかし、様々な知識を組み合わせることにより独創性が生まれるという見方もある。それは薬学部出身であることの強みだ。

- ・研究と臨床とのつながり

これにはやっている人が少ないという課題がある。しかし、やっている人が少ない領域に挑戦してみると（ブルーオーシャン戦略）に価値があるのではないかという意見もあった。

ブルーオーシャン戦略：競争が激しい領域であるレッドオーシャン領域と競合相手のいないブルーオーシャン領域の二つの領域のうち、従来存在しなかった新領域であるブルーオーシャン領域に挑戦するという商業戦略。

- ・ある一つのことや職業にこだわらず、様々なことをやる

志田さんのお話の中で一つのことにとばかり続けるのではなく、転職も視野に入れ、自分の道を歩むために常に最適解を選んでいくというお話があった。また、鹿山さんは大学院に進学する際、環境も分野も思い切って変えたそうだ。お二人のお話から、新しいことに挑戦し続ける姿勢が大切なのだとわかった。

- ・わかっていないことを考察できる能力

複数の分野を組み合わせ、今までわかっていなかったことを考察できるということは研究する上で必要な能力であるということがわかった。

また、これらの研究マインドから「将来何がしたいか」という話し合いも行った。在宅医療に興味のあるAさんは、在宅の薬剤師をしながら研究もしたいとのことで、薬局でしっかり研究しながら在宅に関わる仕事をするというビジョンをお話していただいた。また、Bさんは研究をしたいが、臨床に出ながらなのか、大学教員として働きながらなのかは後々決めていきたいとお話していただいた。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

「卒業10年後にしたいこと」をベースに「卒業5年後」、「卒業まで」の3つの時期に分けて

研究マインドを活かして何をするかを各々で考えた。

- ・卒業10年後に、それまでに得た在宅医療の知識を大学に還元するために大学教員になることも視野に入れている。在宅医療に関する分野は研究している人が少ないため、卒業5年後まではだれもやっていない、あるいはやっている人が少ない分野の研究に挑戦することに力を入れ、卒業までは統計の取り方やズレの少ない仮説の立て方を学びたいと考えている。
- ・研究はしたいが、病院薬剤師か大学教員のどちらになるかは決めかねているようで、卒業10年後、その時の状況に応じて決めたいと考えている。どちらの道に進むにしろ大学院へ進学し学位を取得しようと考えており、臨床に興味のある K.W さんは研究と同時進行で臨床の現場にも出たいと話していた。そのために卒業までは、勉学に励むと同時に、これから行われる臨床実習で現場の様子を見て、本当に自分がやりたいことなのかを見定めたいと話していた。
- ・治験業界も視野に入れているとのことで、自分の触れたことのない領域に挑戦することで新しい視点を持てるのではと期待している。卒業5年後までは今までに得た技術を応用してより深い研究をし、可能であれば他の研究室と共同研究もしてみたいと話していた。今は技術・知識を養い、研究の仕上がっていく達成感及び論文が世に出る喜びを知り、学会に参加して多くの研究者の話を聞きたいと考えている。
- ・卒業10年後も好奇心を持ち続け、視野を広くして研究したい。そのために、必要な知識・実験技術を身に着ける。また、複数の分野を組み合わせる考える力を養い、研究を進める際にはディスカッションを積極的に行い、他の人の意見を取り入れられるようにしたいと考えている。
- ・自分の興味のある分野を見つけて深堀していくために、卒業までにまずは実験の手技はもちろん、論文などから知識を身に着け、学会に参加し経験を積みたい。そして、大学院等で独自性・独創性を得て、それに活かせる就職先に勤める。
- ・自分の興味のある分野を研究して社会に貢献できるようになりたい。自分の好きなものを探すためにまずは知識を蓄えていきたい。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：3B

1. 研究マインドを活かせるキャリア

ブレインストーミングの形でどのようなキャリア（生き方）がしたいのかについて意見を出し合った結果、以下のような意見が得られた。

- ・学会発表などのアピールの場を研究しながら作る。
- ・アカデミア、企業、国立研究所などで研究はできる。

⇒アカデミアではやりたいことをやれる。教育もできる。後の世代につなぐことができる。

自分のやっているテーマでやりたいことがあればそれをやりたい。

がん分野のブルーオーシャンに興味がある。

- ・患者と直接関わる。病院薬剤師としてそこで疑問に感じたことを研究。
- ・研究に興味あり。研究職も視野。興味・面白そうなことをやりたい。
- ・試行錯誤しながら、自分が主導で有用な論文を多く出せるようにする。それが誰かの役に立てばいい。
- ・興味のある、自分にあった職場で働きたい。
- ・ベンチャーだと出資が必要となるため、基礎よりも応用の研究になってしまう。
だから、利益優先の商品開発が必要になる。学術的価値のある基礎研究をどちらかと言えばやりたい。
- ・病院や在宅にも対応できる薬剤師。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

1の「研究マインドを活かせるキャリア」をもとに各自で「卒業まで」・「5年後」・「10年後」にどのようなキャリアを歩んでいきたいかを時期ごとにまとめた。

卒業まで どこで？：大学（研究室）

- ・自分がやりたい研究をやる。経験を多く積み実験に役立つ手技を熟達させる。
- ・論文を書けるだけの文章力をつける。
- ・生薬やがん治療など実践的に使えることについて研究する。
- ・様々な技術、解析方法の習得。論文、学会発表を目的に研究を進める。
- ・新たな技術を取り入れる。（バイオインフォマティクス）
- ・論文をたくさん読み、興味の幅を広げる。
- ・研究のテーマに詳しくなる。学会などに参加し知識をつける。

卒業5年後 どこで？：大学、企業、病院

- ・何かしらの専門性、自分だけのものを身に着ける。
- ・有用な論文を多く出して貢献できるようにする。
- ・病院や薬局で働いていく中で興味を持ったことや気になったことを見つけて研究し、認定薬剤師などの資格を取る。
- ・今後中心に据えていくテーマを決め、助教などの研究室の学生を指導する立場に就く。
- ・多職種間連携のために、人との繋がりを持つ。

卒業 10 年後 どこで？：大学、企業、病院

- ・専門性の中で社会に貢献できるだけの実用的な研究の結果を出せるようにする。
- ・大学内外での共同研究などをオファーしてもらえだけの結果を出せるようにする。
- ・患者や周りから頼られるような、誰かの役に立つ仕事がしたい。
- ・講師など、学生全般を指導する立場に就く。
- ・自身のメインテーマについて究めていき、最終的には後世の研究者を育てていく立場を目指す。
- ・身近な人の声を聞きながら製品開発に関わりたい。
- ・興味のあるテーマで研究がしたい。
- ・研究で得られた成果が何かの役に立っているといいと思う。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：3C

1. 研究マインドを活かせるキャリア

SGD の経緯

自分たちの研究活動の中でのキャリアプランや薬剤師全体としてのキャリアでどのようなものがあるかについて1人ずつ意見を出した。

これらの意見を大まかに分けると研究と保健衛生・臨床の分野に大きく分類された。まだ進路が定まっていない、研究室配属していない方もいたので薬剤師としての様々な職種についての意見も出て幅広い選択肢があることを知り貴重な意見を得ることができた。

特に、現在問題となっている「感染症」をキーワードとして保健衛生に関してのキャリアについての意見が出た。

目の前の患者から活かすのは臨床現場で、臨床現場などからの情報を基に研究するのは企業や大学である。どのキャリアでも、研究マインドが生きる機会は多くあると考えた。

下記が挙がってきた意見である。

<研究>

- ・ベンチャー企業で、幅広い分野の研究を行う。大手企業では、分業がはっきりしている可能性がある。
- ・製薬の研究として、薬の設計や情報収集なども活かせるのではないか。
- ・海外の情報も日本に入ってくるため研究も進めやすくなっている。

<保健衛生・臨床>

- ・感染症は途上国などでも問題になっている。SDGs などにも役にたつ。
- ・公衆衛生的な面で活躍するため、「国立感染症研究所」などで研究をする。
- ・日本では、保健衛生基準が海外と比較して高いため研究をしても活かせる場所には限界がある可能性があり、世界に目を向ける。
- ・臨床現場で得られた結果を基に、他の患者さんにも適応できるかを考える。
- ・薬剤師の資格を活用する仕事に麻薬取締官、行政、先生、特許を守る弁理士などがある。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

SGD の経緯

個人作業で班員それぞれのキャリアについてキャリアプランを作成した。そして、これらの意見を個々に発表していきどのような職種でも自分たちにとって必要となるキャリアについてまとめた。

下記は個々のキャリアプランである。

- (1)卒業までは、研究活動で疑問点などを考え探究心を持ち続けて研究マインドを育む。

卒業5年後は、病院等の臨床現場で患者さんに直接関わり薬の効果や副作用について研究をして他の患者さんにも役立つような研究結果を残すとともに、新たな医薬品の開発などを企業と協力して行う。

卒業10年後は、同じく臨床現場でさらに経験を積んでいき地域に貢献できるような研究をしていきたい。

- (2)卒業までは、研究活動を通して研究を行うための技術、能力、研究マインドを育む。

卒業5年後は、企業での研究を通して社会の利益となる成果を挙げる。

卒業10年後は、既存の研究活動に加え、これまで育んだ研究マインドを次の世代に伝えていく。

- (3)卒業までに、研究に必要な知識や技術を身に付ける。そのために、自分の学びたい分野に近い研究室に入り、研究マインドを育む。また、他学部や実習先の方などに関わり、人脈を広げる。

卒業5年後は、研究機関や企業で研究者として、新薬や新技術の開発の一端を担う。人脈を使い、新しいものに対する情報収集や情報提供なども行っていく。

卒業10年後は、研究機関や大学、企業などで、独立研究を行うとともに、自分の行った研究が新薬や新技術の開発に使用してもらうために学会などで研究内容を発表する。また、研究活動の中で得たものを基に今後の研究活動の発展のために従事していく。

- (4)学部卒業までは、研究室で研究技術および知識の習得、研究マインドの確立を目指すほか、薬局や病院での実習を通して現在のニーズを把握する。

卒業5年後までは、アカデミアで、社会全体の利益となるような研究成果をあげていく。

卒業10年後以降は、これまでに培った研究マインドや研究技術を、大学等で次の世代へと伝えていく。また、公衆衛生上のニーズは常々変わり得るため、情報収集は継続して行う。

- (5)卒業までは、研究活動を通じて技術を獲得し研究マインドの育成につなげる。また、卒業後の進路について情報を集め決定する。その際、分析技術などを大学院への進学で獲得するのか、科捜研や科警研、または企業で得るのかも踏まえて決定したい。

卒業5年後は、市民の安全・安心できる生活を守るために科捜研又は科警研で活躍したい。

卒業10年後には、科捜研・科警研で引き続き活躍するか、そこで得た知識をもとに学生の安全に取り組みたい。そのため、薬剤師として働きながら学校薬剤師として子供たちの安全を守りたいと考えている。

- (6)卒業までは、興味のある研究分野についての情報収集をしつつ、配属先の研究室で研究を行う。また、専攻分野に関わらず様々な人と交流をし、研究マインドを育む。

卒業5年後には大学院を修了し、製薬会社に就職する。就職先では薬の味や形状に関する研究に従事する。

卒業10年後では、製薬会社に拘らず自分の目標とする研究ができる場所で研究を続け、患者さんの服薬の際のアドヒアランス向上に尽力したい。

キャリアデザインのまとめ

卒業までに、研究室で研究マインドを育みコミュニケーション能力などを向上させて人脈を広げて外の人と交流をしていき研究の幅を広げていく。

卒業5年後は、製薬会社や行政などで保健衛生として治療ではなく予防に目を向ける。そして、働く上で重要である情報収集と提供を行う。

卒業10年後は同じく製薬会社や行政などで培った技術などを後世に繋げていく。そして、引き続き情報収集と提供を行ってニーズの把握を行的確に研究を行っていく。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：4A

1. 研究マインドを活かせるキャリア

4A班ではまず、将来を通して何を達成したいのか、働くうえで何を重要視したいか等の目的を考え、それに基づいて働き方・生き方をリストアップした。

まず各自の意見を出し合いディスカッションを進めた結果、大学院進学、学部卒業後薬剤師として勤務、製薬会社等の企業へ就職(研究職以外)、臨床勤務の社会人大学院生、大学や製薬会社の研究員になること、以上が各々の今後進みたい、あるいは考えているキャリアの方向性として挙げられた。

臨床勤務の社会人大学院生や、学部卒業後そのまま薬剤師として働くことの利点として、臨床現場で薬剤師免許を活用し、なおかつ研究にも携わることも可能な点が挙げられた。特に社会人大学院生としての進路の場合、臨床現場で働きながら学部レベル以上の高等研究を行うことが可能なため、女性にとっては卒業時の年齢や家庭状況をあまり気にせずに働くことが可能というメリットがあることが挙げられた。また、社会人として働き、ある程度の収入を得ながら大学院で学ぶことが可能なため、学費等の金銭面の懸念が軽減されると考えた。一方で、社会人として働きながら、それ以外の時間を大学院生として過ごすこととなるため、それ相応の肉体的、精神的な負担を伴う点がデメリットと言える。

大学や企業の研究員としては、自分の興味のある分野や得意分野を深堀し、知的好奇心を満たしながら働くことができるのが大きな魅力であると考えた。大学職員として研究をするに関しては、薬学教育にも直接携わることができる機会がある点で他のキャリアとは一味違った魅力がある。また、企業の研究員においては、求人の募集要項が修士・博士以上となる場合がほとんどであるため、大学院進学が前提になる一方で、就職後は自らの研究マインドを存分に活かして研究に特化した働き方が可能であり、研究をしたいという希望を最も叶えやすいキャリアとなると考えた。

研究マインドを活かすことができるキャリアは、単に企業等の研究職だけではない事が今回のディスカッションから見出すことができた。最前線の臨床現場で働く薬剤師は、研究所の研究員よりも身近に臨床と触れ合う機会があり、それが故に新しい観点に切り込むことが可能であると考えられる。日本は基礎研究には力を入れているが、まだまだ臨床研究は先進国の中でも遅れている。現場の薬剤師がより臨床研究に介入することでより良い医療の提供につながると考える。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

薬学部卒業までは、現在配属されている、もしくは今後配属されることになる研究室でその分野の知識や理解を深めること、研究手技の獲得及び研究デザインを学び研鑽を積むことが大切であると、班の全員が考えていた。そのうえで、卒業後のキャリアに向けて論文の書き方や現場で活躍するために必要な能力を身に着ける準備期間として各自のスキルアップのための目標を持つ

ていることが分かった。

5年後のキャリアからは、班内でも複数の考え方が存在した。その中でも、「病院で薬剤師として働きながら臨床に関する研究に尽力していきたい」というキャリアプランが多く挙げられた。臨床現場での経験を持つことで、考えや発想が研究に対してより結びつけやすくなることが考えられる。また、臨床現場で働く中で問題点を見つけ出し、それを研究することによって現場あるいは社会単位で環境の改善へと導くことが可能になるという考え方もある。他にも、その後のキャリアも考えつつ、臨床現場を経験しつつ研究に本腰を入れることを念頭において社会人大学生も選択肢の一つとして考えているメンバーもいた。

10年後のキャリアに関しては、メンバー各自の色が濃く現れた。例えば、薬剤師として働くにしても、単に普通の薬剤師ではなく認定薬剤師の資格を取得して、より高い専門性を持って現場で活躍すること、地域に密着した薬剤師として生まれ育った地元での医療に貢献することなどで10年目のベテラン薬剤師として一歩踏み込んだ働き方を目指していた。また、医療現場で働きながら卒業後10年で培われた経験を活かして臨床研究にも携わることや、臨床での経験を活かして企業に転職し、開発や臨床試験に関わりたいなど、各々がそれぞれのキャリアを思い描いていた。

薬剤師行動規範により生涯研鑽が求められているが、卒業後ただ漠然と働くのではなく5年後10年後、あるいは20年後を考えながら今後のキャリアプランを同じ志を持つ仲間と立てていくことで、今まで考えなかったような新たな視点が広がることが発見できた。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：4B

1. 研究マインドを活かせるキャリア

グループ内ですでに研究室に配属されるなどして研究経験がある人、そうでない人がいたため、それぞれの経験から「研究マインドを活かす」という視点で考えを出した。以下に挙げられた意見を列挙する。

- ・患者さんとの直接的なかかわりを持つ（生きがいにもつながる）
- ・患者さん、他医療職とのコミュニケーションをとる
- ・物事に対して研究的な考え方を持つ
- ・どの職種についてたとしても PDCA を行う意識を持つ
- ・特定の分野に固執しない（基礎研究だから臨床の患者さんのことは見えないというのでは問題）
- ・職種に関わらず視野を広く持つ、小さな気づきは大きなことにつながる可能性もある
- ・患者さんだけでなく、その家族や地域社会にももっと目を向ける
- ・医療現場での薬剤師の地位向上を目指す（現状では知識があってもそれを十分に発揮できていない、薬剤師ができることが社会に知られていない）
→病棟に出向いて患者さんと接する機会を増やす、チーム医療での積極性を持つ
- ・一般論ではなく、個人個人に対応できる能力を持つ

下線を引いた部分は複数から意見があげられ、特に重要なことであると考えがまとまった。上記は「研究」という切り口からキャリアを考えた結果だが、実に様々な意見があげられた。それだけ「研究」という一つのことが薬剤師のキャリアにおいて重要な位置づけであり、それをきっかけとして様々な分野につながっていくということの認識ができた。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

個人で卒業まで、5年後、10年後のキャリア像を考え、グループで共有した。キャリアとしては「研究職」を目指す人が多かったが、それをどのように実現させるのか、目指す薬剤師像には違いがあった。卒業後も大学院生として大学に残り薬理分野の研究を続けていきたいという人や、社会人大学生として基礎研究と病院での臨床経験を積みたいという人など具体的なプランを考えている人もいた。また、自身の成長をもって後進のロールモデルとなり育成を行いたい人、薬学の知識をもって小中学生への薬学教育を行いたいという人、薬学の知識をより社会に還元するため行政組織での活躍を視野に入れている人など、一般に想像される基礎研究の場でなくとも様々な場面で、研究で培った探求心や問題解決能力を活かして社会に還元していきたいという意見が多数あげられた。

薬剤師の活躍の場は幅広く、病院・薬局をはじめ行政・教育など選択肢は様々ある。具体的な働き方のイメージがある人にとって、異なった意見を持つメンバーのキャリアプランを聞くことで実現に向けた糸口を見つけることにつながった。これからの学生生活で自分がやりたいことを考えていきたいという人には、これまではぼんやりとしていた研究に対する考え方や将来の選択肢の広さを実感することで今後のモチベーションにもつながった。

グループ内での自分の考えを発表することや、意見交換を行うことで将来どうしたいかという自分の考えを明確にすることにつながったという声が多く上がった。卒業時、5年後、10年後と将来のいつかではなく明確なポイントを定めることで現実味をもって考えることができた。また、自分の意見を他者に発表することで自分の考えを明確化することやモチベーション向上にもつながったとの意見が上がった。

第3部「研究マインドを活かすキャリアデザイン」

グループ：4C

1. 研究マインドを活かせるキャリア

第2部では研究マインド(研究の魅力)について話し合った。そこで第3部では、少し発展させ、研究マインドを活かせるキャリアにはどのようなものがあるか話し合った。挙げられた意見としては、

- ・興味のある分野について専門的に研究し、研究したことが活かせるキャリア
- ・様々な方向からアプローチし、多くの人と関わることで人脈を広げられるキャリア
- ・臨床的な観点から見て、データを照らし合わせるキャリア
- ・課題を乗り越える力を活かせるキャリア
- ・論文を読む力を活かせるキャリア
- ・主体的に行動するキャリア
- ・薬学だけでなく、他の分野との橋渡しになるキャリア
- ・疑問点を見つけ、自分の力で解決する力を活かせるキャリア

などがあった。

このように話し合っていくと、研究マインドを活かせるキャリアには様々なものがあることが分かった。何か1つの職業に限らず、薬局、ドラッグストア、製薬会社、研究職、教育現場等、どのような仕事に就いても、研究マインドを活かせることに気づいた。また、1つの職業で見ても、様々な研究マインドを活かせると分かった。

グループで挙げられた意見をまとめたところ、

「研究室や実務実習などで、どのような問題や疑問が存在するのかを見聞きし、将来的に自分自身で問題を発見し解説する能力をつけること」

「ほかの分野を専門とする人と関わり人脈を広げ、様々な視点から物事を見ることができるようになること」

この2点が今の私たちに出来る大切なことだと分かった。

2. 私の研究マインドを活かすキャリア

次に、研究マインドを活かすキャリアデザインを立てた。個々で自分自身の研究マインドを活かすキャリアについて考え、意見を交換した。

卒業までの学生のうちにできることとして、

- ・研究や実務実習を通して、課題を解決する思考パターンを何通りか作成することで、課題解決能力を身につけること
- ・研究室の仲間や、他学部、他大学の多くの人と関わり、コミュニケーション能力を養うこと

- ・論文、新聞、雑誌などを日頃から読むことで、薬学的分野に限らず、現在問題となっていることを知り、調査すること

などの意見が挙げられた。どれも、今後働き出したときに重要となる能力が身につくと考えた。

卒業してから卒業5年後の間にできることとして、

- ・論文を読んだり、学生のときに培った技術を使い、研究し新たな発見、知識を身につけること
- ・他の医療従事者や患者とコミュニケーションをとり、より良い医療を提供すること
- ・病院などで行われる勉強会に参加するなど、積極的、主体的に働くこと
- ・これまでに集めてきた問題の種を参考に、結論を出すことで患者さんのためになるような問題点を探し出すこと
- ・国内にとどまらず、海外で活躍すること

などの意見が出た。どれも、先程話し合った研究マインドを活かせるキャリアに繋がっている。

卒業10年後以降は、

- ・実際に働いたり研究したりした中で見つけた課題を、多方面から解決し、より良い治療を行うことで現場に還元すること
 - ・新たに得たマインドを活かすこと
 - ・自分の専門分野での研究を行いながら、今まで経験したこと、学んだことを学生に伝えること
- などが研究マインドを活かしたキャリアだと考えた。

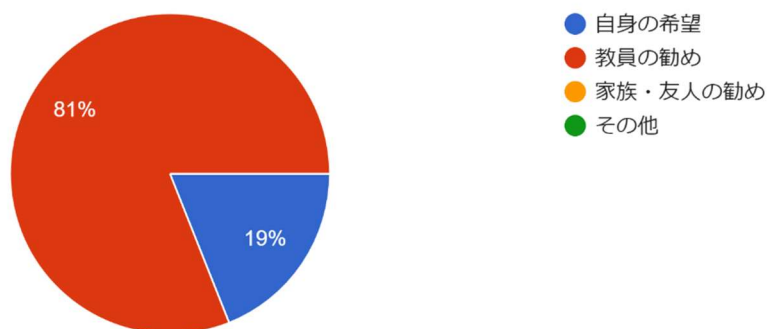
初め、キャリアデザインについて考えた際は、テーマが漠然としていて、具体的なことがなかなか思い浮かばなかった。しかしこのように、具体的な時期を分けて考えていくと、自分の将来のキャリアデザインが少しずつ立てられるようになってきた。また、様々な意見が挙げられたが、最終的な目的としては、未来の患者さんにより良い治療がなされるよう、行動することが最も大切であるという点では同じである。

今回のワークショップを通して、研究マインドを活かすキャリアについて1日かけて話し合い、意見を交換したことで、将来への視野が広がった。また、今のうちから将来働き出した時のことを考えて一つ一つ行動するべきだと改めて感じた。

参加者アンケート結果

参加者アンケート結果

質問①-1: 本ワークショップへの参加についてあてはまるものを選んでください。



自身の希望: 11 人 (19%)

教員の勧め: 47 人 (81%)

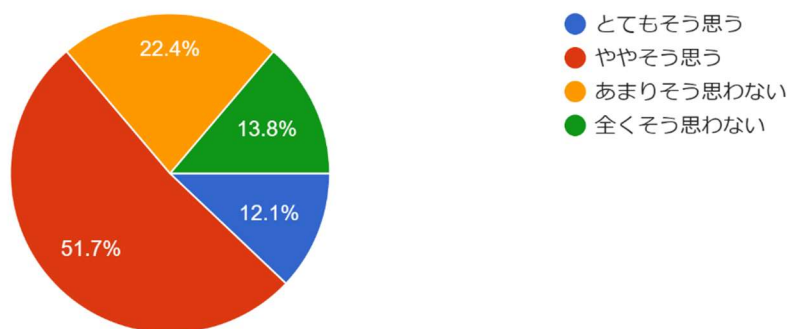
家族・友人の勧め: 0 人 (0%)

その他: 0 人 (0%)

質問①-2: 質問①に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・今回具体的にどういう人材に参加して欲しいのかが明確ではなく、自身の学校では研究を現在行っている 5 年生で参加者を絞ったが、他の大学ではこれから研究を行う人も含まれていた。
- ・教員からの勧めで参加しましたが、公募であっても参加していたと思います。

質問②-1: 本ワークショップ参加前に不安なことや困ったことがありましたか？



とてもそう思う: 7 人 (12.1%)

ややそう思う: 30 人 (51.7%)

あまりそう思わない: 13 人 (22.4%)

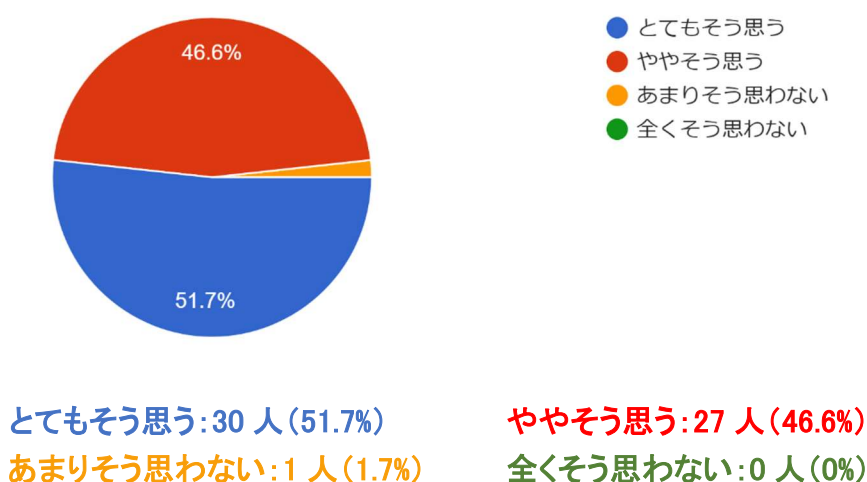
全くそう思わない: 8 人 (13.8%)

質問②-2: 質問②に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・何か考えを事前にまとめて準備した方がよいか不安だったため、それについての案内などがあれば少しは不安なく参加することができたかと思っています。
- ・ワークショップに参加することが初めてだったため事前に何か準備しておくべきなのかわからなかった。

- ・自分は絶対に将来研究の道に進むと決めているわけではないので、今回の案内を見て将来研究をすると決めている学生が行った方がいいのではないかと不安だったが、周りも自分のような人が多くいて、ロールモデルの先輩方も必ずしも研究の道に進んでいるわけではなかったため安心した。
- ・半日ほどのミーティングでもいいのではないかと考えた。
- ・参加前は、機材トラブルが起こらないかや、初めての人とオンライン上でスムーズなグループワークができるか不安だった。実際に参加してみると ICT サポートの方や協力者の方がたくさんいたので安心できた。
- ・どのような発表なのか緊張して不安だった。
- ・参加前は何を話せばいいのか不安でした。
- ・話し合う内容の告知がないため、自分に話せる内容なのかどうか不安でした。
- ・初めましての人との交流だったため少し不安でした。
- ・ZOOM での 2 画面使用、Google スライドの利用が初めてだったため上手く操作できるか不安だった。
- ・2 年生としての参加だったため、足を引っ張ってしまわないか不安だった。
- ・ワークショップの形式や、具体的にどのような内容を取り扱うのかが事前にわからなかったため、不安を感じながら参加した。参加希望を提出する前に昨年のスケジュールやプログラムなどを共有していただけるともう少し気楽に応募できたと思う。

質問③-1: 本ワークショップにスムーズに入り込めましたか？

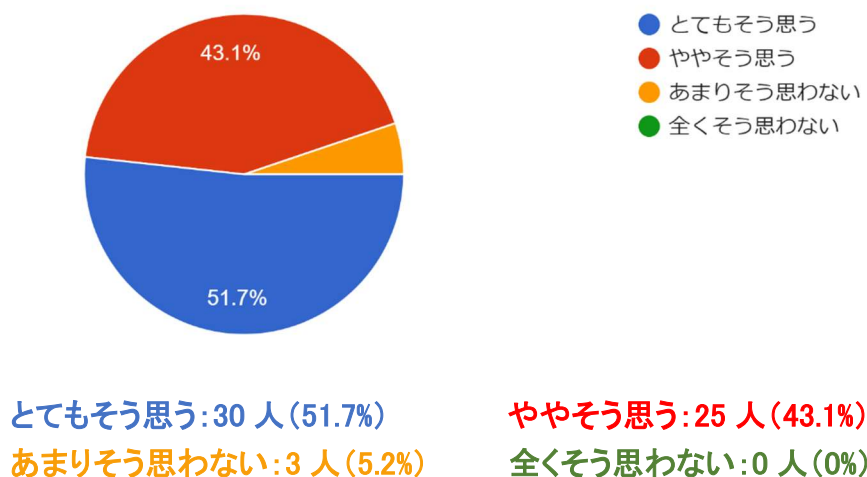


質問③-2: 質問③に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・話し合い時の小グループに振り分けられる機能のおかげで、どうすればよいかと悩むことなくスムーズに入り込めたと思いました。
- ・今回はオンラインでの交流だったが、対面での交流だともっとスムーズに入り込めるといった。
- ・運営側の事前準備がしっかりと行われていたため、迷うことなく参加することができた。
- ・ワールドカフェを話し合うグループのメンバーとも行いたかった。
- ・ワールドカフェで参加者の方が自分と同じように緊張しているのが分かり、楽になりました。
- ・最初のワールドカフェで緊張がほぐれた。

- ・司会が指定されているのが、話題を進めるのに役立ちました。
- ・係りの方の対応がスムーズで、快適に zoom に参加することができました。
- ・最初の過去・現在・未来について話し合った時間で打ち解けました。

質問④-1: 第一部のワールドカフェでおしゃべりを楽しめましたか？

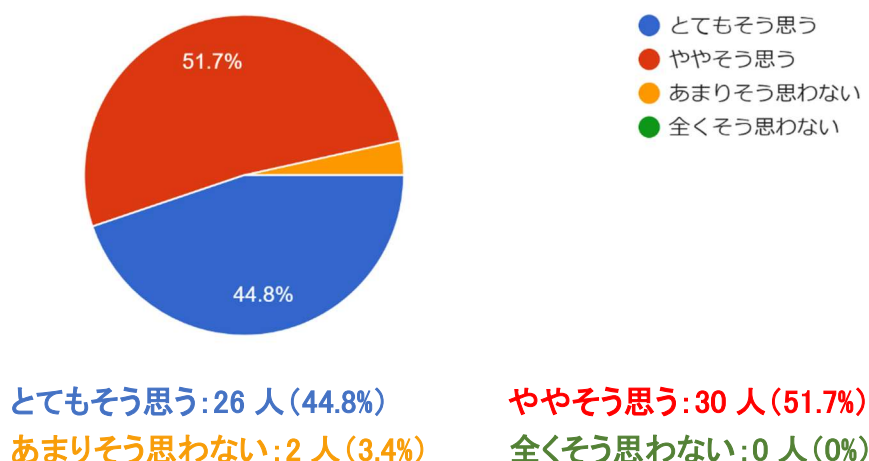


質問④-2: 質問④に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・司会の方をあらかじめ決めていただいたおかげで、始まりや途中の話題提供などが途切れることなくグループの皆さんとお話しでき、緊張もほぐれてその後の討論がしやすくなったためとても良いと思いました。
- ・「過去」と「現在」のワールドカフェは他のグループの話も聞けたのですが、「未来」についてはグループ内で話し合って終わってしまったのでせっかくなら他のグループの話も聞いてみたかったです。
- ・普段関わることのできない全国各地の薬学部生と話すことができ、いい刺激になった。
- ・トークテーマが難しく自分の意見を考えることに苦労しました。
- ・まだ研究室配属をされてないので研究室がどう言う感じなのかわからなかった。今回参加してすでに研究室配属を受けている学年が上の方の意見も聞いてより研究が楽しみになった。
- ・やや時間が短かったが、それ以外は楽しめた。
- ・グループごとに司会が居てくれたおかげで、スムーズに会話をすることができた。
- ・テーブルマスターとして話題を振っていくのが難しかった
- ・トークテーマが抽象的なことだったので、少し話しにくかった。おしゃべり自体は楽しかったが、話が盛り上がってくるにつれてテーマからずれたことを話してしまって、「与えられた話題とは少しそれたことを話しているような気がするが大丈夫だろうか」という不安を抱えながら話していた。
- ・学生主体でコミュニケーションを進めつつ、運営の方々に時折コメントやフォローを入れていただいたおかげで円滑にディスカッションが進みました。
- ・カフェのお陰で緊張感がほぐれました。
- ・この時間があったおかげで、不安がなくなりました。

・テーマによって話題を回すのがが難しかったです。またテーブルマスターが話を回すのが苦手な方だと、会話が止まってしまうことが多くあり、結局会話を回せる人が回している状況になってしまいました。

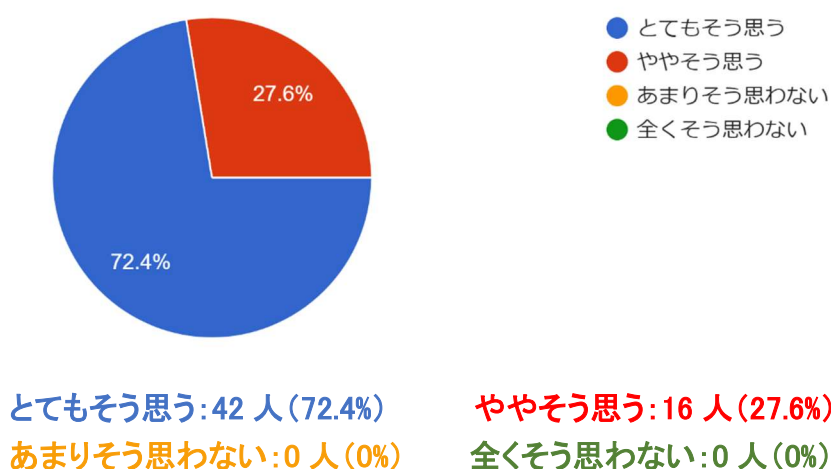
質問⑤-1: グループディスカッションに積極的に参加できましたか？



質問⑤-2: 質問⑤に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・それぞれ役割を持つことで、司会の方が意見を聞いてくれたり皆が意見を出したりすることができ、積極的に参加できたと思います。
- ・先陣を切って司会を務め、グループと協力できたかと思います。
- ・みなさん、積極的に意欲的な方しかおらずとてもいい環境でした。
- ・自分の意見は積極的に言えたが、司会がうまくいっていないときに、普段の対面なら助けて司会のメンツが保てる程度に介入しますが、zoom で初対面の状況では積極的に困っているところを助けにいきませんでした。

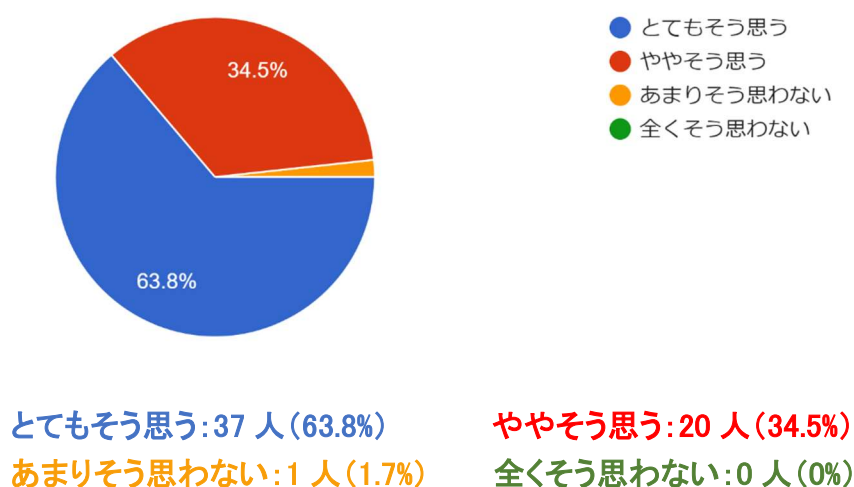
質問⑥-1: 先輩方の講演はキャリア(進路)デザインの参考になりましたか？



質問⑥-2: 質問⑥に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・卒業後、5年後、10年後はどのような自分になっていたいか、そのためにしておくべきことなどをあまり考えていませんでした。先輩方のお話を聞いて、知らなかった道を知ることができ、より具体的に自分の進路を考えることができたため、大変勉強になりました。
- ・研究職に就かれている方や、大学院で研究されている方など、様々な働き方を知ることができた。
- ・企業への就職や大学教員として大学で研究する以外に大学院を卒業した後どこに就職するのか知らなかった。今回様々な方の経験や意見を聞いて考えていた以上に色々なキャリア設計ができることを知れた。
- ・病院薬剤師をしながら研究をしている方の話は自分の学校でも聞けが、薬局に勤めながら研究をしている方の話は大学ではなかなか聞けないのでとても参考になった。
- ・働き方や大学院の通い方など、方法はたくさんあるのがわかった。
- ・先輩の話で初めて知った話があってとても勉強になりました。
- ・研究がテーマであるため、教員、病院薬剤師、企業で活躍されている方が先輩として参加されていたが、公務員などの行政で活躍されている薬剤師の方の話も聞きたかった。教員や臨床で活躍している薬剤師の話は、授業でも聞くことができるため、今回の関係者として参加されていた厚生労働省などで働いている方などのWSならではの関係者からも話が聞けたらよかったと思う。
- ・大学院に行ってから進路の幅が広がりました。
- ・単に学生生活を過ごしているだけでは中々身につかないような新しい視点や、考え方が学べる非常に勉強になる講演でした。
- ・多くの学生の考えが聞けてとても勉強になりました。
- ・研究職は研究職に特化してしまう固定観念があったのですが、臨床現場でも並行して研究に携わることができる先輩の意見を伺い、自分の中にも研究に対するイメージが湧いてきました。
- ・先生方も含めてたくさんの進路があり今後を考える糧になりました。

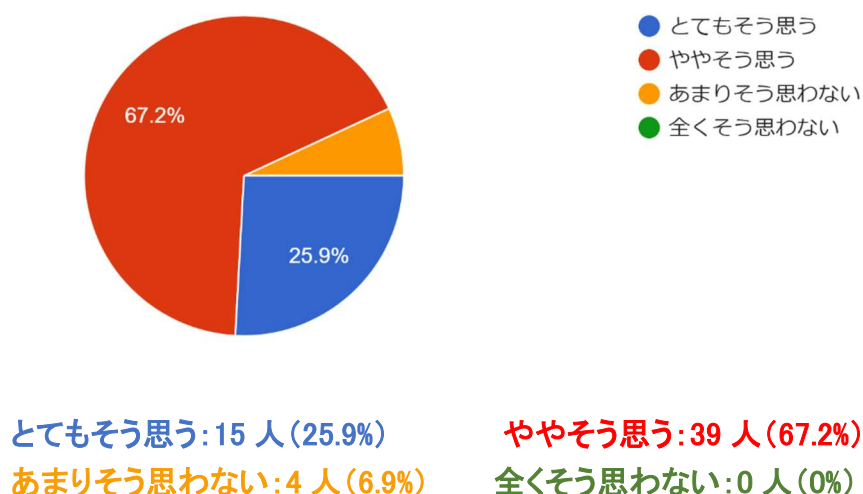
質問⑦-1: 本ワークショップに参加して研究に対するモチベーションは高まりましたか？



質問⑦-2: 質問⑦に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・班のメンバーの意見を聞き、自分では出せなかった考えや、改めて自分が何をモチベーションにしているかを確認することができました。
- ・研究というと必ず博士課程に進学して博士号を取得しなければならないと思っていたが、様々なキャリアデザインに研究が関わっていることを知り、研究がより身近なものに感じられた。
- ・同大学にはほとんど大学院志望の人がいなかったため、研究に対する意欲がある方々とお話することができて良かったです。
- ・全く考えていなかった院進学が選択肢の一つに昇華されました。
- ・まだ研究室配属に至っていない私にとっては今後を前もって考える大変いい機会でした。
- ・やる気のある方ばかりだったため、モチベーションが高くなりました。

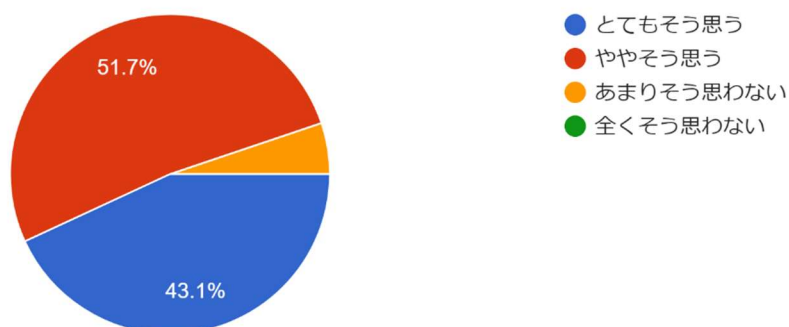
質問⑧-1: 研究マインドを活かすキャリア(進路)が具体的になりましたか？



質問⑧-2: 質問⑧に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・自分が卒業までにやるべきことが具体的になり、5年後、10年後の自分の目標を考えることができました。
- ・今回のWSを通して、進路についてじっくり考えていきたいと思う。
- ・まだ具体的に自分がどうしていきたいかは決めきれていないのでこれから学校生活を送る中で様々な経験を自分から率先してすることで決めたい。
- ・まだまだキャリア(進路)は固まっていますが、自分の中で本当にやりたいことを考えるヒントはたくさん得ることができました。
- ・進路以外にも研究について改めて考える機会になりました。
- ・先輩方のお話を聞いて研究と言っても逆に様々な選択肢があることが分かったため具体的に進路が定まったというよりも選択肢を広げられたように感じた。

質問⑨-1:これからのキャリア(進路)が楽しみですか？



とてもそう思う: 25 人 (43.1%)

ややそう思う: 30 人 (51.7%)

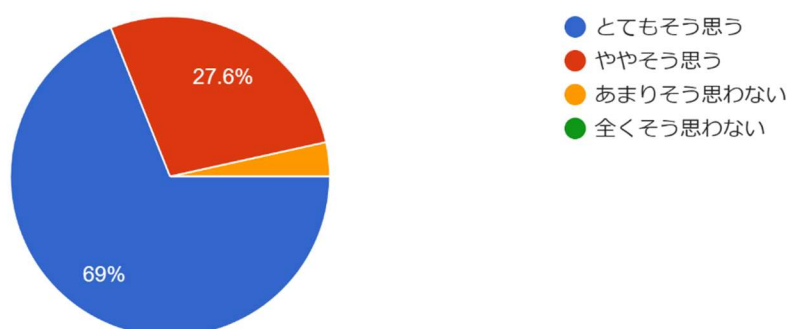
あまりそう思わない: 3 人 (5.2%)

全くそう思わない: 0 人 (0%)

質問⑨-2: 質問⑨に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・今を過ごしていくので精一杯でしたが、先を考えたことによって自分はこれからどうなっていくのか楽しみになりました。
- ・薬剤師として勤めながら、研究で発見できることを楽しみにしています。
- ・研究のやる気にもつながり、良い未来のために頑張ろうと思いました。
- ・現在は不安の方が大きいかもしれません。

質問⑩-1: 本ワークショップは満足できる内容でしたか？



とてもそう思う: 40 人 (69%)

ややそう思う: 16 人 (27.6%)

あまりそう思わない: 2 人 (3.4%)

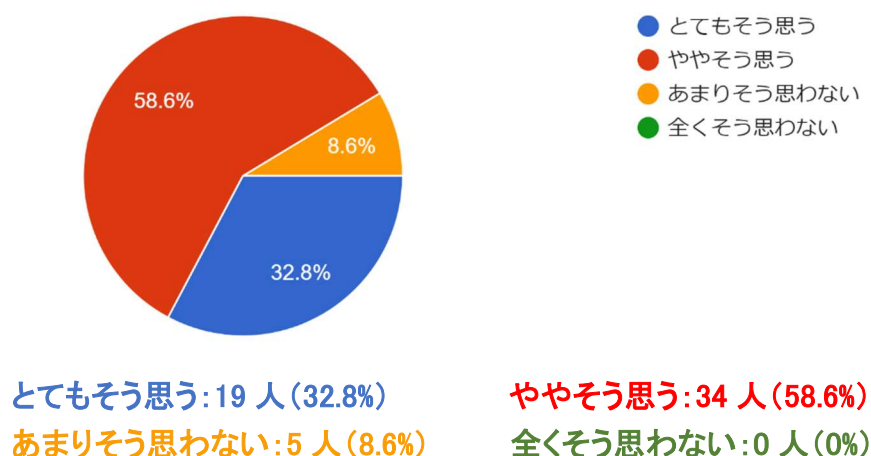
全くそう思わない: 0 人 (0%)

質問⑩-2: 質問⑩に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・他大学の薬学部の学生と交流できたことがとてもいい経験になりました。他の学生はどのような考えを持っているのかを知ることができ、楽しかったです。
- ・学生から様々な大学の話や研究の内容などを聞くことが出来、とても楽しかった。
- ・他の人にも薦めてみようと思いました。

- ・他大学生徒のディスカッションをする機会がめったにないため、考え方のシェアなど、とても参考になりました。
- ・色々な先生方や先輩方、そして同じ学部の人たちとの交流で視野が広がりました。
- ・先輩方のお話を聞いて良かった。また、似たような志を持つ他大の学生と話せた点が良かった。

質問⑪-1: 本ワークショップ終了後も参加者間での交流を希望しますか？



質問⑪-2: 質問⑪に関して、ご意見等があれば自由にお書きください。

- ・今回のワークショップ参加者は各学校から1~2名程度ということなので、参加者以外にも色々な薬学生の方と交流できる場があると嬉しいです。
- ・同じ薬学生として集まったので色々なことについて楽しく話せる機会などが欲しいです。
他のグループの先輩方とは、最後の交流会とも話すことができなかったのが交流をしたいと思います。
- ・これからCBTで忙しくなる人が大半だと思うのでなかなか時期が難しいかもしれないが、CBT後で実習開始前の1月2月などに交流会があると嬉しい。
- ・WS終了後すぐだと体力が持たなかったのも、後日や30分、1時間後に設けてくださると情報も整理した状態で質問し合ったりできるので良いなと個人的に思いました。
- ・Excelにて同じグループの学生のメールアドレスが配られ、意見交換をするために、メールを送信したのですが、返信が来ず、少し困っていました。大学のメールだとブロックされてしまうのか、悩んでいました。一応、設けられた時間内に意見はまとまったので大きな問題はありません。
- ・4Bグループのスラッグに入りいつでも交流できるようになりました。
- ・自分のチームの方とは報告書の作成を通じてプライベートにつながることができた。他のチームの人と関わる機会があると嬉しい。

質問⑫: 日本薬学会および薬学教育委員会へのご意見、ご要望があればお書きください。

- ・今回のメンバーと対面でお話できる機会があれば良いなと思いました。勿論オンラインでも刺激的で楽しい場となりました。ありがとうございました。
- ・この度は、貴重な機会をご用意いただき、ありがとうございました。

- ・この度は、有難う御座いました。素晴らしい会に参加できましたこと大変喜ばしく、またご機会がございましたら参加したいと思います。
- ・これからもこの活動を続けていくと自分のように視野や考え方が変わるきっかけとなり、そういった学生が増えると思います。
- ・同じような志を持つ仲間や先輩がいることを知るだけで活力になりますので、このように交流できる機会が継続して持てたら嬉しいです。対面での開催があれば尚ありがたいです。
- ・この度は本ワークショップを開催していただきありがとうございました。様々な企画をご用意くださり、とても楽しむことができました。
- ・また、このような機会がございましたら、積極的に参加させて頂きたいと思います。最後になりますが、シン・全国学生ワークショップの開催に携わって下さいました皆様には心より感謝を申し上げます。貴重な機会を与えて下さり、誠にありがとうございました。

参加者印象記

参加者の印象記

- 今回のワークショップに参加する事が決まり、せっかく選んで頂いたのだから、何か自分の身になる事を持って帰りたいと言う思いの反面で、内容について行けるのか不安に思っていました。お話中にも私の将来やりたいことと、本日の会の内容とで、かけ離れているのではと、気にしつつ参加していました。
- どう言う研究をしたいのか意見を言う中で、参加者の方々が否定せずに聞いてくださり、サポートの先生に「今後必要になるよね」と仰っていただいた事で、私の中の思うキャリアを実現させるために具体的にどうしたらいいのか、前向きに考えるきっかけとなりました。
- タスクフォースの方々や、参加者の方のお話を聞き、選択肢は沢山あるのだと刺激を受け、自身も成長できる道に進みたいと思う事ができました。
- ゲストの方が仰っていた言葉ですが、「他人と比較しないで自分がやりたい事をやる」と言うお言葉に沿い、自身の思うキャリアへ迷いなく進むきっかけになったのではと思います。
- 初めにワールドカフェを行い、討論するグループとは別の学生とのアイスブレイクをしたことで、緊張がほぐれて発言をしやすくなりました。他の学生は何がきっかけで薬学部に入ったのか現在どのような研究をしているのか、やりたいことを知ることができ面白と感じました。研究マインドを話し合った際、創薬と育薬という考え方から、2つの分野に分かれた魅力があるという意見が出ました。班員全員が考えを出していく中でたくさんの意見を聞くことや、新たな発見ができました。先輩方のキャリアを聞いた際に知らなかった道があり、今までは自分のキャリアをあまり考えていませんでしたが具体的に5年後、10年後はこうなりたいと目標を考えることができました。班員の将来も具体的に考えられており、とても勉強になりました。参加する前はとても不安でしたが、他大学の学生と交流し、とても楽しくいい経験ができました。
- このようなワークショップに参加したのは初めてでした。事前に学校の先生から他の参加者は3.4年生の方が多いという話を聞いており、自分はまだ研究室にも所属していない2年生であるためグループワークのときにきちんと発言できるか不安でした。しかし、ワールドカフェでかなり緊張もほぐれ、グループワークも周りの方が発言しやすい雰囲気を作ってくださったので不安に思っていたより活動しやすかったです。また、御三方の研究マインドを聞けて面白かったです。どの方のお話でも共通してあったのは、誰もやっていないことや今まで自分がやってこなかったことに新しく挑戦する姿勢を持続することが大事だということでした。私は周りの人の様子を見ることが多いので、誰もやっていないことに挑戦するのはかなり勇気がいると思います。しかし研究をし続けるにはその姿勢が大切だということがわかったので、これから少しずつ身につけたいと思いました。
- 今回の学生WSで、他大学の方々と交流や薬学の先輩方の貴重なお話を聞くことが出来、今後につながるいい経験になったと思います。オンラインの交流ということもあり、ワールドカフェでは、最初は入り込むのに少し時間がかかりました。しかし、同じ薬学を志す方々と話していくうちに、気が付けば活発に意見を言い合えるようになっていました。第二部、第三部では、薬学の先輩方の意見を聞き、自分たちの今後のキャリア形成を行いました。まだ、進路

については決め切れてはいないものの、グループの方々と意見しあうことで、少し、進路について整理できました。WSが終わった後も他大学の方々の生活や、先輩方のキャリアなども聞くことが出来、非常に参考になりました。

- 今回のワークショップを通じて、自分のキャリアデザインを明確にし、自分の研究マインドについて考えることができました。私の大学は大学院に進学を考えている学生がほとんどおらず、多くの学生は薬剤師として病院や薬局で働くことを考えています。そのため、大学院進学に関するキャリアについて不安がありました。しかし、大学院進学を考えている薬学部の学生と話すことで、自分のキャリアを具体的にすることができ、漠然とした不安が取り除かれた気がしました。

また、自分が考えていなかったキャリアを歩んでいる先輩のお話を聞き、研究職の進路といっても多様であることがわかりました。特に研究マインドが人によって大きく違いながらも、誰かためにという考え方共通しており興味深く感じました。

私の研究マインドはまだ明確ではありません。今回のワークショップで具体化されたキャリアデザインをもとに薬学生として生活する中で研究マインドを育みたいと思います。

- 初めは、先生の勧めで参加したため「研究」に対してあまり興味を持っていなかったのですが実際に先輩方の話を聞いたり、他の学生とSGDをやっていく中で研究に対する思いなどが聞けて自分の中でイメージが変化しました。未知の分野を開拓していく楽しさや結果から生まれる更なる探究心が研究の醍醐味で面白いところだと思いました。

大学内では研究職を目指している人が少ないのですがワークショップに参加して実は似ている分野を研究していたり、独創的な研究に興味を持っている人など様々な人がいて話をしていたとても楽しかったです。

また、他職種の先輩方の話を聞いたことで自分が思っている「研究」とは異なった場所でやっている方などもいて新しい発見でした。先輩方の研究マインドを聞いて共感したり、自分とは違った考えは自分の研究マインドに活かしていきたいと思いました。自分の挑戦したいことを後悔せずにやりたいと思いました。

- 参加したことで将来像が以前よりも明確になるとともに、大学院への進学意欲が増しました。今回のワークショップは研究室の教授から参加してみないかとのお声がけをいただき参加しました。参加する前は漠然と今まで学んだ知識を活かして研究したり論文を書いたりしてみたいと思っていました。身近に大学院に行かれた先輩方もいましたが、他の大学院を受験された講演者の話を聞くことができて、将来の選択肢に幅が生まれました。その方は大学部生の時に得た経験を活かし、新たな領域に挑戦されていました。また病院で働きながら臨床に近いからこそできる研究をされている方もいて、研究スタイルも多種多様なのだと知ることができました。これからは大学院進学も視野に入れながら、日々の勉学に励もうと、モチベーションが上がりました。

- 第一部のワールドカフェでは、とても楽しくおしゃべりできた。自分の大学とは異なる大学生の生活や授業のことを聞くことができて、とても面白かった。

第二部の自分達の研究マインドについて考える部については、今までなんとなくやってきた研究の楽しさややりがい、大変な点について深く考える機会になったと感じる。グループで話し合ったり、他の班の人たちの発表を聞いたりするなかで、自分では思いつかないような点について考えている人たちもいて、研究に対する捉え方が広がったと思う。

第三部では、研究マインドを活かしたキャリアというものがなかなか思い付かず、とても大変だった。また女性の人は妊娠出産のことまで含めてキャリアを考えていて、キャリアを考えるときは仕事だけでなく、自分の家族や生活環境なども考える必要があると教えられ、今まではキャリアと言われれば仕事のことしか考えていなかった自分にとって目から鱗でした。

- 今回のワークショップは、研究マインドや卒業後のキャリアを考える機会だったので、3年生前期が終わったばかりの研究室配属前のタイミングでディスカッションに参加するには少し難しいと感じるところもあった。一方で、同学年の学生が具体的な将来の計画を語る様子や積極的に質問を行っている様子に刺激を受けた。これまで上の学年や他大学の薬学部生と交流する機会はなかったため、研究を始める前の節目となるタイミングで様々な人の考えが聞けたことは視野を広げる意味でも良い機会になったと思う。グループで話し合いを行ったことで、研究マインドや研究で培ったスキルは研究職に就かないにしても活かすことができるということを認識できた。そのような意味でも、薬学部で6年過ごし、博士に進めばもっと長く研究というものを学べることは様々なキャリアへ進む選択肢を残せると感じた。私はまだ具体的な将来を描けていないが、今後も情報を集めようと思う。
- 自分の学部には4年制の学科がないので、研究に専念する進路を目指し、研究の楽しみを見つけた方々のお話を聞くよい機会であり、皆様の意見をととても楽しく聞かせていただきました。私もこれから本格的に研究をすることになりますが、不安よりも楽しみな気持ちが大きくなりました。最も印象に残ったことは、薬剤師として働きながら研究もするという選択肢が実現できるということでした。4年制に通われている方の話を聞いて、薬剤師と研究者は同じ学部でも別の職なんだというイメージでしたが、兼業できることを聞いて患者の声をすぐに反映して研究に生かしたり、研究することで患者のことをより理解することが可能になることを知り、新しい視点を得ることができて、WSに参加してよかったと思いました。日本中に研究や教育を頑張りたいと思っている大学生がいることを知り、今後の薬学の発展を楽しみにしたいと思います。
- 今回のワークショップでは、普段なかなか接することのない他の大学の方と色々とお話ができてとても刺激を受けました。特に自身が所属している私立大学と国立大学では全く研究に対するモチベーションが違っており色々お話出来たのが良かったです。ワークショップの内容自体も自身の過去と現在を討論しながら見つめ直し、将来のやりたい事の軸を明確にしていくことができ、なかなか1人ではやりにくいことなので良かったです。この貴重な機会を頂いたことを糧にこれからも研究マインドを大切に頑張っていきたいです。
- 今回、日本薬学会主催のワークショップに参加してみないかと教員から打診された。私は薬学研究について強い興味を抱いていたこともあり二つ返事で引き受けた。

博士取得者をロールモデルとして今後のキャリアデザインについて一考できるのは、考えが定まっていない今の私にとって絶好の機会であった。これを機に、漠然と考えていた今後の研究への関わり方を少しでも明確にできるのではないかと思った。

ワークショップでは、講演をされた方々がこれまでの人生でどのようなキャリアを形成して博士を取得し、現在に至り研究に携わっているのかについて聞くことができた。所感として、様々なキャリアデザインに触れることができたのは私にとって大変、学びのある時間であった。自身の方向性について改めて考えることができ、今後に活かせる内容であった。

また、全国の薬学生とグループを作り研究マインドやキャリアデザインについてディスカッションを行えたのは、非常に有意義な時間であった。学部生として学業に励む同世代の研究に対する考え方を知ることができ刺激を受けた。

今回の貴重な経験により、漠然と考えてきた研究への思いを明瞭にしていくきっかけを得られた。これを契機に、今後のキャリアデザインを明確にしていきたい。

- 今回のシン・全国学生ワークショップへの参加は、在学中や卒業後の自身の研究マインドを活かす方法を考えるきっかけになりました。また、他の医療系学部の生徒と意見交換することはありましたが、今回のような同じ薬学生と意見交換することがなかったためとても良い経験になりました。

ワークショップに参加していた学生の意識がとても高く、同じ大学の学生からは出てこないような意見も多く活発なディスカッションを行うことができました。ディスカッションの中で、「研究マインドを活かす」＝「研究職」ではなく薬剤師として病院や薬局で働く場合にも活かせるのでは？という意見が自分にはない意見だったため、特に印象的でした。

博士を取得した先輩方の話を聞く中で、博士課程卒業後の進路には、研究職につくこと以外に博士取得後に病院で働くことや企業の営業職として働くことなど様々な選択をできることを知りました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。

- 今回は貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。

ワークショップのテーマから博士課程に進む予定の学生が大半なのかと考えていましたが、むしろ少数派だったことが意外でした。基礎研究ではなく臨床研究を薬剤師として働く中でおこなっていききたい、という学生も多かったように感じます。

こうしたワークショップに自発的に参加する学生だからなのか、目的意識を持って積極的に活動している学生が多かった印象です。視点も多様で薬学を志したきっかけ・将来の目標等様々な意見を聞け、視野を広げられる良いきっかけとなりました。運営の先生方は進行を補助してくださり、ディスカッションの際も良い指標となりました。

また、グループワークに参加した経験があまりなかったため、今回第三部のグループディスカッションで司会を担当したことは貴重な機会となりました。反省点としては、第二部の司会を務めた方を参考に順に意見を聞いていったものの、最初はキャリアをリストアップしていく場面のためそれよりはアイディアのある人から次々発言していくほうがテンポは良かったか

もしれないと振り返った際に感じました。また、発言の長い人に対してはある程度の時点において途中で切り上げてもらうよう促す、内容が冗長になっていた場合は軽くまとめ直して確認する、などの作業をもっとスムーズにおこなえば良かったと思います。またグループとしての結論をまとめる際に、もっと上手くメンバーの意見の共通点や独自の点を整理して発表に備えられたら良かったと思います。

今回のワークショップに参加したことで、グループワークのやり方を学べたことに加え、先立の方々のお話を伺うことや全国の薬学生との交流の機会が得られました。このことから、将来のキャリアプラン等についてより具体的に考える良い学びが得られたと思います。

- 他大学の薬学部の学生と交流する機会を持てたことは、自分にとってとても学びのあることでした。これまでの私は研究に対するモチベーションはあったものの、それをどのように実現させていくのか、結婚・出産などのライフプランとどのように両立していくのかを考える機会が少なく、将来に不安を感じていました。今回のワークショップで様々な価値観・背景を持つ薬学生と研究や薬学の未来について意見交換をする機会を持てたことで、同様の不安を持つ学生が自分だけではないことに気づき、また現状を打破していくための具体案を持つ学生と出会うことができました。他大学の薬学生とのワークショップということで、自分の大学の良さを客観的に知ることができ、各大学の良さを融合させればさらに全体としてよい環境を作っていくことにもつながると感じました。今回のワークショップでの出会い、ディスカッションの内容をその場のことで終わらせてしまうのはとてももったいないことです。今後も継続して交流の場を設けていき、薬学を少しでも良い方向に進める手助けになればと思います。
- 今まで、他大学の薬学生と交流する機会がなかったので、今回のワークショップ WS は大変新鮮でした。共通してお話できるテーマである「薬学」について、研究の話、(他)大学事情の話、最近の話題のことなど、色々なお話をさせて頂きました。参加した中には「ぼくはこういう研究がしたい」「これについて教えて下さい」という研究意欲溢れる方もおり、今回の WS に参加しなければ、見えない良きライバルのことを意識することもなかったのだらうと思いました。
- 私は、これまで目の前のことにいっぱいばいばいで、自分の将来について、具体的に深く考える機会があまりありませんでした。このワークショップに参加して、他大学の皆さんが、自分の今後のキャリアについて、真剣に深く考えておられる姿を見て、私も負けてはいられないという、やる気が湧いてきたように思います。今後は、研究を進めていく中で、自分の将来をどのように創造していくのか、自分なりの答えを出せるよう考えていきたいと思います。また、今回ワークショップで実際に働いていらっしゃる先輩方の貴重なお話を聞かせていただき、私の中での、研究のキャリアへの活かし方についての視野が広がりました。今後もこのような機会があれば、積極的に参加し、自分の視野や可能性をより広げていけるように努めたいと思います。最後に、今回はこのような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

- 本学はコロナ禍でも対面による講義を実施していたのでオンラインミーティングに慣れておらず、zoom 開催による他者とのコミュニケーションが取りにくく感じた。また、コミュニケーションが困難な中で直感的に理解ができるようなテーマでは無かったのも相まって、チーム内での話し合いから全体での発表の形に仕上げるには時間が足りないように感じた。チーム全員の考えをまとめることに時間がかかってしまったので、次回からは1チームの人数を減らすか、時間を延長するなどの対応があると参加者としてとてもありがたいと感じた。本学は立地などの条件から他大学の学生と交流する機会がありませんでしたので、このような機会を設けて頂けると各地の特色にあった考え方に触れることができ、貴重な経験であった。今回のテーマに限らず全国の薬学生が交流できる場があると様々な選択肢を考えることができ、研究者という将来も考えることができると思った。
- 自分は周りに薬学部に進学した友人がいないので自分の大学の薬学部のことしか知らなかったが、ワークショップを通じて様々な学校の内情を知ることが出来とても面白かった。また、自分は研究者になろうと決めているわけではなく初めは気後れしていたが、みんなと話すうちに自分のような意見の人も多く参加していることが分かり安心した。このワークショップを通じて、研究とは必ずしも博士課程に進学し研究職に就くことではなく、臨床の現場で働きながら現場の問題を解決したり、企業で働きながら学部時代の研究活動で培ったコミュニケーション能力や課題解決能力を生かして仕事をしたりと、将来どの分野に進んだとしても活用できるものであると気付けた。
- 他大学の学生と交流する機会が初めてで、すでに研究を始めている学生や、将来的に研究をしたいという意味を持った学生とディスカッションやプロダクト作成を通して、様々な考えや思いを聞くことができ、とても新鮮な体験をすることができた。また、研究で得られた知識や経験を現場で生かしている先輩方の話を聞いて、必ずしも研究の世界に残ることだけが研究で得られた知見を活かせる選択肢でなく、手段や方法には捉われないこと。大学院に進むことや研究をすることを、ある日突然志すような場合も珍しくないこと。他にも自分にとって今後活かせるような話を聞くことができ、有意義な時間だった。私は、現時点で自身の将来について明確な考えがない為、今回ワークショップに参加したことで、研究への道がワークショップに参加する以前よりも確かな選択肢として考えられるようになり、良い機会に巡り会えたと感じています。
- 様々な大学の薬学部の皆さんの話が聞けて、大学によって少し違うカリキュラムがあるとわかった。例えば、研究室の配属時期が違うこと。私は、現在3年ですが、4年生がグループの大半を構成していたため、4年生のリアルな日常が知ることができて良かった。自分の考えを口で説明するのは、少し大変でしたが、今回のディスカッションで良い練習になりました。
- 私は小さい頃から病院で働く薬剤師に憧れて薬学部に進学したため、研究職の道に進むことには消極的だったが、今回ワークショップに参加し、実際に研究職に就いている先輩方のお話を聞き、病院などで働きながらでも研究ができるということなどを知ることができた。また、

同じ大学内には研究の道に進みたいという人があまりいないという印象だったが、今回、さまざまな大学の方と話し、研究を今後も続けたいという思いを持っている薬学生が全国にはたくさんいるのだということを知った。まだ病院、薬局実習を行っていないためはっきりとした進路は考えられてはいないが、今回のワークショップが今後進路を考える際のきっかけの1つになるのではないかと思った。加えて、普段、他大学、さらに他学年の薬学生と交流する機会がほとんどないため今回交流ができ、それぞれの研究や大学の授業の話などを聞くことができてとてもよかった。

○私は、大学教員の方から日本薬学会主催のワークショップへの参加を勧められて今回のワークショップに参加することにしました。私は開催直前までワークショップでは研究に関する難解な物事について話し合うことになるかもしれないと思い、自分が話し合いについていけるか不安でした。しかし、当日は難解なことには触れず参加者同士で気楽に各々の思いや考えを話すことができる雰囲気になっており、非常に楽しい時間を過ごすことができました。また、博士課程を卒業した先輩方のお話はどれも私自身の将来のキャリアを考える上で大いに参考になるもので、企業で働きながら大学院に進学したり臨床現場での仕事と研究を両立させたりするなどキャリアの選択肢の多さを実感できる内容だったと思います。今回のワークショップで学んだことを自分の将来のために活かしていきたいです。

○最初は上手く話が出来るかどうかやZoomやGoogleスライドを正しく使うことができるかといったことが不安に感じていたが、実際に参加してみるとアシスタントとして参加してくださった先輩方や教員の方がすごく丁寧に接してくれたりエンジニアの方により慣れないZoom操作でもやりやすくしてくれたりと不安に思っていた部分が問題なく進んでいくことが良かったです。また、先輩の具体的な話や同年代で同じような志望を持つ人との会話によって自分の将来への考え方がより明確になっただけでなく新たな価値観や考え方、進路希望などを知ることができた事がとても自分にとって良い経験となったと感じた。

○私自身、大学院へ行くことは選択肢の一つとして考えてはいるが、今後のビジョンが明確に決まっているわけではない、という中で参加させて頂いたのですが、実際に博士号を取得した先輩方の経歴をただ聞くのではなく、当時、どのような思いをもってそのキャリアを選択したのかというマインドの部分も聞けたので、今後のキャリアを考える上でとても参考になりました。また、普段は関わることのない他大学や4年制大学の薬学部の学生とのワークショップを通して自分と同年代の方々の研究に対する熱い想いを聞くことができ、まだ本格的に研究に参加していない自分にとっては、とても刺激になりました。

今回のワークショップでのグループワークをきっかけにして、今後も同じ目標を持った仲間との関係性を深めていけると、このワークショップに参加したことの価値がより高まるのではないかと感じました。

○最初は会話に入り込めるか心配だったが、司会を任されたため自分が主体になって会話を動かしたこともあり、会話や進行がやりやすかったです。

また、参加していた学生も話しやすい感じの方が多く、もっと固い感じの人が多く参加してい

るものだと思っていたので少し以外に思いました。

先輩方のお話などから、どのような理由で大学院進学を選択したのかなどを聞いたことは自分にとって大きなプラスになったと感じています。

- 私は将来何をしたいのか考えることもできず、悩んでいた部分もあり、何を発表したらいいのだろう、他の方達がすごい意見などを持っていたらどうしようかと考えていましたが、実際参加すると先輩や他の大学の先生などサポートしてくれる方達がたくさんいて、色々と考える機会になり、小さいグループなので、自分の意見を積極的に述べる雰囲気が出ていて、初めて知ることたくさんあり、とてもいい機会になりました。参加してよかったと心から思っています。

- 私は、未だ進路について決まっておらず、決定するにあたり参考になるものがあればと参加した。今回参加して、多くの人が将来の進路についてほぼ決まっているように感じ、焦りを覚えた。しかし、自分のやりたいことや将来について考えるきっかけになったので、先輩方の話も含め決めていこうと思った。

研究は自分の欲求を満たすものであり、社会に貢献できるものであるという捉え方がある一方で、研究は手段であり目的ではないという捉え方もあり、「研究」に対して多角的にみる必要があると感じた。

研究とは何か、研究マインドとは何かについて、考え意識することで、日頃行っている研究活動もより有意義なものになっていくのではないかと思う。

- 本ワークショップ参加前、私は不安でいっぱいでした。大学を代表して私が出ていいのか、何を話せばいいのか。ワークショップで最初に行われたワールドカフェ。ここで私は司会という役割に任命されました。これまで司会をしたことが無かったですが、サポーターの先生のお陰でグループのメンバーにまんべんなく話を振ることができ、長い沈黙もなく進めることができたので良かったです。そのお陰もあってか、第2部からは不安もほとんどなくスモールグループディスカッションを進めることができました。本ワークショップに参加してみて一番印象に残ったのは参加者全員が研究に興味・関心があるということです。少なくとも私の大学(6年制)ではそういった学生がおらず、普段の学生生活において研究について友達同士で語り合うことはほとんどありませんでした。本ワークショップでは研究に関心があるもの同士で話すことができ、とても有意義な時間になりました。

- 研究室の先生に勧められ、軽い気持ちで参加することになったワークショップでしたが、可能であれば毎回参加したいと思えるような非常に刺激的な会でした。今まで考えもしなかったような新しい視点の獲得や、同じ志を持つ全国の仲間達との交流はモチベーションの向上に大いにつながりました。また、大学院を卒業された先輩方からのお話はどれも非常に興味深く、研究に対する熱意が感じられました。実際にまだまだ自分自身のキャリアについては考える必要がありますが、私もこんな大人になりたいと憧れる程、先輩方が研究マインドについて語られている姿は輝いて見えました。自由交流会では、貴重な出会いがいくつもあったのに、このままで終わらせてしまうのはもったいないと思い、学生同士で集まりを企画してみたいと

いう話にもなりました。これから CBT・OSCE が控えていますが、大学の仲間だけではなく、新たに知り合った他大学の仲間とも切磋琢磨して思い描く将来に向かって日々研鑽を積んでいきたいと思いました。

- まず、第 1 部の World Café では、今回ワークショップに参加した方たちの「薬学」に対する考え方を知ることができたとともに、自分自身のことについても見直す機会になったため、とても良い時間になったと思う。特に将来したいことについて話した時間では、現在ある問題について、どうしたら解決できるかなど思っていたよりも深いディスカッションになったのが印象に残っている。

また、第 2 部、第 3 部のスモールグループディスカッションでは、「研究」に対する考え方や、それを活かしたキャリアデザインについて、様々な考え方を得られて良かったと思う。個人的には、「研究」は難しいものだと考えていたし、キャリアについてもほとんど考えたことがなかったため、これからの研究活動に対する不安を払拭し、将来について考える良い機会だった。ここで得た様々な物事の考え方を大事にしていきたい。

- 最初にワールドカフェという形式で参加者同士自由に話す機会があったので、あまり緊張せずに会話することができました。今回のワークショップでは様々な学年の薬学部の方が集まっていて、まだ自分が経験していないことについても詳しく聞くことができたのでとても勉強になりました。研究室を決めたきっかけや研究についての考えは人それぞれで、研究を目的とする人や研究を過程として捉えている人がいることを知りました。私は将来病院や薬局などで患者さんと直接関わって仕事がしたいと思っていて研究はそこまで関係ないと考えていたのですが、病院や薬局で働いていく中で疑問に思ったことや興味を持ったことを研究して自分のキャリアに繋げていくことができると知りました。そしてその研究を活かすことができれば患者さんの役に立つという最終的な目標にも辿り着くことができます。今回のワークショップで研究を最終的な目標を達成するための過程とする考え方で研究と向き合っていきたいと思いました。

- 博士進学に対して、色々な人が異なる視点をもって考えていることに驚きました。ただ、学年のこともありますが漠然と研究がしたい、と言う意見が多いようにも見られて、その先の具体的なディスカッションはできなかった印象です。

- 同学年の子や先輩後輩様々な立場の人から、お話を聞くことはできて大変お勉強になりました。はじめは緊張してしまいましたが、はじめのトークでたくさん質問できてとても楽しかったです。研究室選びの参考にもなり、自分が極めたい、そして社会に貢献できるような研究室に入り、研究マインドを己のものにして社会に役立てたいと思います。

- 参加される先生方や、学生のみなさんはきっと堅い感じなのかと始めは思っていたのですが、SGD を通じる中で意外と柔らかい方々が多いことが分かり、私もとても話しやすかったです。私の所属する大学は 4 年後期から研究室配属があり、研究室に関する説明が配属直前までなく、自身で探るしかなかったので、研究というイメージがまだありませんでしたが、このような機会ですぐに自分の未来のテーマに向かい合うことができとても貴重な経験になりました。

また、他大学の学生と意見交換をし合う中で、自分にはなかった発想や、アイディアが飛び交い、とても参考になりました。今回研究について講義して下さった先生方の内容も、現在の臨床の現状や、研究の在り方など、将来自分が現場になったとこの漠然としたイメージがわかりました。しかし、SGD について、急に「研究マインド」について議論を開始と課題が出されたのですが、正直、始めは何を話せばよいのか困惑しました。「私のやりたい研究、研究のあるべき姿」など例えていただけるとわかりやすかったです。しかしながら最終的に楽しんで取り組むことができたので結果非常に良かったです。

○私は 2 年後期から大学院への進学を検討しており、様々な大学内外での研究室訪問やセミナーに参加することで自分のやりたい研究や興味のある学問への研鑽を深めてきましたが、大学自体が薬剤師としての就職を推進していることもあり、大学内では大学院進学や研究者希望の仲間の中々出会えることが出来ませんでした。そのため、大学の教員の方や研究者の方の話をただ聞くことだけしか出来なかったのですが、今回初めて薬学部主体のワークショップに参加させて頂き、私と同じような夢や進路を持つ全国の学生と意見を交換できて非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。ワークショップでは、ある程度教員の介入もありましたが、比較的学生同士での会話や議論の場が多く、自主的に意見を出し合う事が出来ました。一方、高学年になり、すでに研究室に所属している学生は現在各自の研究室で行なっている研究についての具体的な発言を行う事が出来ましたが、低学年の学生はまだ研究室に所属していないため、漠然としたイメージだけで会話を成立させる必要があり、研究や進路についての発言が少々困難であるように感じました。しかし、やる気のある全国の薬学部の学生で、同じような夢に向かって切磋琢磨出来る仲間と出会う事が出来たことが 1 番の収穫でした。本当にありがとうございました。

○わが校では博士課程への進学を考えている 6 年制学科の生徒が少なく、自分も博士課程にすすむ意義に関して疑問を持っていました。このワークショップで他大学の学生さんの話や先輩方の話を聞き、研究に進むメリットや意義を具体的に理解することができました。さらに研究職に関して持っていた漠然とした不安や不明点も、今回のワークショップで解消することができました。

また、私は SARS-CoV-2 が流行しだした年に入学したため、他大学との交流がありませんでした。そのため、ワークショップで他大学の学生さんと交流できたことは新鮮に感じましたし、充実した時間を過ごすことができたように思いました。皆さん博士課程を考えているということもあって、非常に聡明で、とても尊敬できる人達でした。

このワークショップに参加したことで、博士課程に進学するという事へのハードルが低くなったと思いますし、博士をとった後のキャリアを具体的に考えることができるようになったと感じました。

○最初は、とても心配していました。うまく話せるか、普段とは違う環境に馴染めるのか、色々考えることがありました。

しかし、ワールドカフェで過去・現在・未来を話し合う中で徐々に打ち解けることができ、ワ

ークショップの序盤にこのセッションを設けていることには非常に良いなと思いました。また、その中で自分の視野を広げてくれる意見があり、非常に良い時間でした。

そして、研究マインドと今後の進路や10年後まで考えることは、新鮮でした。研究マインドは研究活動以外にも色々な場面で役にたつことや自分たちの前には常に患者がいることを忘れては行けず、初心に戻ることができました。

色々と気付きや視野そして、今回交流した仲間と繋がることが出来たことに大変嬉しく思っています。この機会を設けたいただきありがとうございます。

- 学年や地域を超えて熱意ある学生の皆さんと交流できる大変貴重な機会でした。特に印象的だったのは、初対面かつ学年や環境に違いがあるにもかかわらず、互いの意見を尊重し合いながら楽しんでグループディスカッションを進められたことです。研究に対する姿勢も含め、とても尊敬できる仲間に出会えました。また、アカデミア・企業・臨床と多様なフィールドで活躍されている先輩方のお話も聞くことができました。学位取得の過程で培った課題解決能力や粘り強さが自分らしいキャリアを描く力になるのだと分かりました。予測不可能な現代を生きる私たちにとって、自ら学び、考え、行動し、成果につなげる研究能力は一層重要になると思います。今回繋がることができた先輩や仲間との縁を大切に、今周りで支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず研究に精進したいと思います。終わりにになりますが、お忙しい中私たちのために準備して話をしてくださった先生方、貴重な学びの機会を設けてくださった日本薬学会の皆様心より感謝申し上げます。

- 他の大学の薬学部生と話す機会は少ないため、今回のワークショップは自分の将来について考える良い時間となりました。大人数が集まるワークショップに参加することが初めてであったため、参加する前は不安が大きかったです。しかし、参加してみると各々環境は違うものの、研究に興味があるという点で共通していたため、予想していたよりも楽しくディスカッションできたと思います。

ディスカッションのテーマは難しく、意見を出すのに苦労する場面も多くありましたが、他の人の意見や発表、先輩の発表を聞くことで次第に自分の考えも深まっていくのを感じました。自分一人だけでは考えつきもしなかった意見やキャリアが多々あり、自分の狭い視点をより広げることができました。特に、研究における思考法などの研究マインドは研究職以外でも活かせるという視点を持つことができたのは、自分の将来を考える上で凝り固まった考えから脱却するきっかけとなりました。

最後にこのようなワークショップを開催していただいたことに深く感謝を申し上げます。

- 今回の学生ワークショップが、初めて他大学の学生や博士課程を修了された先輩と交流する機会であった。このワークショップの主題は研究マインドを活かすキャリアについてということで、自分自身の研究に対する価値観や今後形成していくキャリアについて、熟考するよい機会になったのではないかなと思う。

現在、私は博士課程に進学して、将来的にはアカデミアに進もうと考えている。今までも、将来のキャリアについて考える機会は多くあったが、私は今までキャリア＝職であるという観

念を持っていた。しかし、先輩方の講演や他の方の話を伺って、職は実際にはどのように生きたいかに付随してくるものであるのだと感じた。本ワークショップの3部では職のさらに向こう側にある生き方までをも見通してキャリアをイメージし、交流する活動を行った。この活動を通して、今までは明確なイメージを持ってこなかった生き方について考える良い機会になったように思う。

また、本ワークショップを通じて、全国には研究を志す学生がこんなにもたくさんいることに驚きと、向上心を抱いた。今後の学部生活の中で、研究スキルを磨いて、自分が思い描くような研究者になれるよう、研鑽していきたいと思った。

- 自分のキャリアデザインについて見直し、同じ志を持つ薬学生との交流から新たな視点を得ることができた良い機会だった。

- 貴重な機会を作っていただきありがとうございました。私は、もともと博士課程や研究職について興味があったので、同世代で違う大学の研究に興味がある人と交流することができて、とても良かったです。研究マインドやキャリアなど、同じ大学の同期とはあまり語り合わないの、みなさんがどういうふうなキャリアを描いているのかが知れて面白かったです。また、周りには博士号を取得している方は、所属している大学の教師陣しかいないので、さまざまなキャリアを歩んで来られた先輩方のお話を聞くことができ、大変貴重な機会になりました。先輩方の講演を拝聴する中で、私が特に印象に残っていることは、臨床と研究は両立できるというお話です。医薬品を創るという立場を目指しているにも関わらず、患者の顔がわからない、という状況で本当に患者に最適な医薬品を創ることや最適な医療を届けることができるのかという疑問を持っていたこともあり、臨床と研究を同時に行うことでこの疑問を解決することができるという新しい視点のお話に目から鱗でした。このワークショップに参加していなければ、持つことができなかった発想・視点でしたので、参加できて本当に良かったです。

- 今回、シン・全国学生ワークショップへの参加は自分にとって非常に貴重な機会となったと思います。私は研究室配属前でしたが、参加前から研究に対して非常に興味がありました。しかし、2年生ということもあり普段から友達と大学院について話す機会が少なかったり、大学院について知る機会も多くないという状況でした。

そんな中このWSを通して、他大学の先輩たちの経験談や考え、先生方の講演から、自分の将来の選択幅が確実に広がったと実感しております。特に講演からは、研究の楽しさの魅力以外に人の役に立つ手段として研究をしている方や、やりたいことや大切にしたいことを軸に様々な活躍の場でキャリアを築いている方がいたのが印象的でした。自分の中で、あるキャリアに進むには自分はこうでなくてはいけないという固定観念のようなものがあったため、もっと自由で時代に適応したキャリアの進め方を考えていきたいと思えるきっかけとなりました。このような素晴らしい機会を設けてくださりありがとうございました。今後も研究やキャリアについてさらに探求していきたいと思います。

- 研究の魅力について話し合った結果、「授業では受け身だったが、研究では能動的に動けること」「未知の物事を知り、第一人者となれること」「将来のビジョンが広がること」などが研

究の面白さだと感じた。

研究マインドを活かせるキャリアにはどのようなものがあるか考えたところ、様々な意見が挙げられた。どの職業についても、研究マインドを活かすことができると分かった。「問題点や疑問点を自分で見つけ、自分で解決する能力を身につけること」「人脈を広げ様々な視点から物事を捉えられるようになること」この2つが今の私たちにできる大切なことだと考えた。今回のワークショップを通して、将来への視野が広がり、これから始まる研究がより楽しみになった。

- 私はもとより薬剤師の資格を有した後、大学や企業などで研究者としての進路を考えておりました。そこで、今回のワークショップが開催される旨を耳にし、将来の自分を見据えるために参加しようと決意しました。参加する前の印象は、「自分と同じ志を持つ学生さん達が多く参加するはずだが、直ぐに打ち解けることができるか分からない。」という印象でしたが、参加した後では「自分と似たような志だけでなく、人それぞれの将来を考えた素晴らしい意見が存在することや、ワークショップ後も交流する機会があれば、是非参加したい。」という印象になりました。ここからは、ワークショップに参加して、皆様の意見を聞き、新たにできたやりたいことに関してですが、研究者として現在所属している大学の薬学部教員として働き、自分の分野の研究を行いつつ、そのカリキュラムの見直しをしたいと思いました。私の大学の薬学部では「人類の保健、医療及び福祉に貢献する新しい薬学を創造する」という理念を掲げていますが、講義の受け手側として、研究よりも地域に出て臨床の場で働くということを主として目指していると強く感じます。臨床の場で働ける薬剤師の需要が高まる現在の日本では、素晴らしい取り組みだと思っておりますが、もう少し、研究をする意義や面白さへの理解を深めることのできる機会を増やし、進路の幅が増え、今よりも各々が高い志を持って社会に貢献できる場を創りたいと考えております。
- 今回のワークショップに参加することで、自分の将来が今までよりも明確になったように思う。今までは漠然と、初めの3年間ほどは病院薬剤師として働き、その後、薬局で薬剤師として働こうと考えており、製薬企業などでの研究職にもやや興味があった。しかし、今回、先輩方のお話をお聞きして、それぞれの現場での経験などを知ることができ、どれもこれからのキャリアを考える上で非常に役に立つものであった。特に印象に残ったのは、志田拓顕さんがおっしゃっていた、企業に勤めると患者さんや実際の医療現場をあまり意識しなくなるため、今行っている研究が本当に社会に還元されるのかという疑問が生まれるというお話だった。私は今のところ、研究がしたいという思いよりも、患者さんのために手助けがしたいという思いの方が強いため、このお話を聞いて、もし将来、研究をするのであれば、企業に入っていくよりも、病院などの臨床現場で薬剤師として働きながらの方が自分自身には合っているのではないかと考えるきっかけになった。
- 今回の全国学生ワークショップでは他大学の薬学部生の様々な意見や考えを聞くことができ、自分が行いたいことや社会への貢献の仕方について改めて考えることができました。最も印象に残ったことは、先輩方の研究に対する考え方の違いです。研究が好きで研究を行う

方や、研究を目的達成の手段と考える方など、人によって研究の位置づけが異なっていました。先輩方のお話を拝聴し、キャリアプランを考えるにあたってやりたいことや目標を明確にすることが重要だと改めて感じました。

ワークショップに参加したことで、薬学部生が携わることのできる職業が多いことを意識するようになりました。自分の目的を明確にし、それを達成するためにどのような職業の選択肢があるのかを知ったうえで、自身のキャリアプランをもう一度考えたいと思います。

最後になりますが、今回のワークショップの開催にご尽力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

- キャリアを考える選択肢が広がった。大学院に進学しても限られた道しか残っていない、ということはないと感じた。さらに、最初に選んだ道から逸れても良いという気付きを得られた。しかし、共通している点として自分の興味のあることに一生懸命に取り組む点があると考えた。また、人との出会いやその場のチャンスを大切にされていると感じた。4年生の前期で研究室入門を経験して研究自体は楽しく、興味はあるが仕事にするには不安を感じていた。キャリアプランだけでなく、より大きなライフプランを考えた際に女性でも研究を続けていくことは可能なのか、という点も不安を感じていた。しかし、研究に一生懸命取り組むという過程自体が自分の糧になり、自分と患者さんにとって良い影響を与えるのではないかと考えた。また、いざ自分が目指したい場所が明確になった時に困らないとも考えた。改めて自分の将来を見つめ直せたため、このような機会を頂けて非常に良かった。

2023 年度日本薬学会薬学教育委員会

◎中村 明弘 昭和大

石田 竜弘 徳島大院

大野 恵子 明治薬大

大山 要 長崎大病院

岸本 成史 昭和薬大

木下 淳 兵庫医大

座間味義人 岡山大病院

鈴木 小夜 慶應大

鈴木 匡 名市大

高橋 秀依 東京理大

武田香陽子 北海道科学大

辻 琢己 摂南大

徳山 尚吾 神戸学院大

前田 和哉 北里大

松永 俊之 岐阜薬大

輪千 浩史 星薬大

(◎：委員長)

発行 2023 年 10 月

公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会